

平成18年度(第50回)
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

中学校第2学年国語科における
文章の構成や展開をとらえる力を育てるための研究
説明的文章での「Gアップシート」の活用をとおして

平成19年1月9日
長期研修生
所属校 花巻市立湯本中学校
氏名 齊藤奈津子

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本構想	2
(1) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本的な考え方	2
(2) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義	2
(3) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開	3
(4) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導に関する基本構想図	4
2 基本構想に基づく手だての試案	4
(1) 手だての試案作成の観点	4
(2) 手だての試案	4
(3) 検証計画	6
3 授業実践及び実践結果の分析と考察	6
(1) 文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要	6
(2) 実践結果の分析と考察	7
4 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための研究のまとめ	18
(1) 成果	18
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	19

<おわりに>

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

中学校国語科における「読むこと」の指導の中で、第2学年及び第3学年では、「文章の構成や展開」を正確にとらえる力を基盤として、それを一層高めるとともに、その力を「自分の表現に役立てること」が求められている。そのためには、論理的な文章構成の説明的文章を用いた指導が有効である。日常生活の中でも、新聞記事、評論文、解説文等にふれる機会は多く、説明的文章を読み取る力をつけることは、実際の社会生活に即した「読むこと」の能力の育成につながる。

しかし、生徒の実態を見ると、平成17年度学習定着度状況調査の結果、「文章の展開をとらえる」問題の正答率が低い。また、授業の中でも、自分の考えを述べたり、書き表したりするときに、構成を意識した表現ができない生徒が多いように見受けられる。このことから、文章の構成や展開をとらえる力が十分に育っているとは言い難い状況にあることがわかる。これは、学年や単元で身に付けるべき指導目標の明確化が不十分なままに指導していることと、生徒自身に実現状況を振り返らせ、定着させるための手だてが不足していたことが原因と考えられる。

このような状況を改善するには、評価規準を基に、授業の目標をより明確にし、学習状況に応じた指導を展開していくことと、生徒自身に実現状況を把握させながら学習に取り組ませることが大切である。その手だてとして、評価規準に対応した問題を盛り込んだシート（Gアップシート）を授業において活用することが有効であると考ええる。

そこで、この研究は、授業における「Gアップシート」の活用をとおして、文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導の在り方を明らかにし、中学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

中学校第2学年国語科の説明的文章において、次のように「Gアップシート」を活用した授業を行えば、文章の構成や展開をとらえる力を育てることができるであろう。

- 1 単元や授業の導入で活用し、授業の目標を明確にする。
- 2 授業で活用して、実現状況を確認し、生徒に把握させながら学習に取り組ませたり、その後の指導に生かしたりする。
- 3 単元の終末で活用し、単元全体の実現状況を把握させ、生徒にその後の学習に生かすよう意識させる。

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本構想の立案（文献法）

中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本的な考え方をまとめ、育てたい力を明らかにするとともに、仮説に基づき、文章の構成と展開をとらえる力を育てるための基本構想を立案する。
- (2) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想に基づき、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案を作成する。
- (3) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、テスト法）

「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導について、手だての試案に基づき、単元「モアイは語る - 地球の未来」の授業実践を行う。また、検証計画に基づいて、文章の構成や展開をとらえる力の育成状況について分析と考察を行う。
- (4) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づいて、中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとら

える力を育てるための研究のまとめをする。

2 授業実践の対象

花巻市立湯本中学校 第2学年 2学級(男子34名 女子37名 計71名)

研究結果の分析と考察

1 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本構想

(1) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本的な考え方 ア 文章の構成や展開をとらえる力とは

「文章の構成や展開をとらえる」とは、文章の構成や書き手の論理の展開の仕方を理解することと考える。「文章の構成」とは、ある要旨に基づいて文章を書くための幾つかの段落による組立のことである。「書き手の論理の展開の仕方」とは、ある要旨を伝えるための書き手の説明の工夫や説得の方法である。

この文章の構成や展開をとらえる力は「文章の構成をとらえる力」、「文章の展開をとらえる力」の二つで構成されると考える。「文章の構成をとらえる力」とは、文章構成の形式を見分け、それを基に文章の内容を理解することである。「文章の展開をとらえる力」とは、書き手が要旨を伝えるために用いた説明の工夫や説得の方法を把握することである。

この力が身に付けば、文章を書く時にも生かすことができる。「文章の構成や展開をとらえる力」は書く能力の育成につながっているのである。また、構成や展開を意識して書く活動を行うことは、「文章の構成や展開をとらえる力」を育てることになり、読む能力の育成につながる。

以上のことから、本研究の目指す生徒の姿を「文章構成の形式を見分け、それを基に文章の内容を理解し、書き手が要旨を伝えるために用いた方法や工夫を把握することができる」とする。

イ 文章の構成や展開をとらえる力を育てることの意義

中学校の「読むこと」の領域では「文章の組立を静的にとらえてその構成を理解するだけでなく、文章を思考の流れに沿って動的に展開を把握すること」が求められている。また、第2学年及び第3学年においては、「文章の構成や展開」を正確にとらえる力を基盤として、それを一層高めるとともに、その力を「自分の表現に役立てること」が求められている。

生徒たちは、文章を読む時、一つ一つの文をたどって読むことにとらわれることが多く、全体を概観することが苦手である。しかし、説明的文章の内容を理解し、要旨をとらえるためには、叙述に即して読み取ったり、細部の表現に注意して読んだりするだけでなく、文章の大きな流れを概観し、文章がどのように構成されているか、筆者がどのように論理を展開しているかを的確に把握していくことが必要である。つまり、説明的文章を読むには、「文章の構成や展開をとらえる力」が必要なのである。

説明的文章において「文章の構成や展開をとらえる力」が身に付けば、文章の内容を理解し、要旨をとらえることができるようになる。また、「文章の構成や展開をとらえる力」が育ち、論理的な論の進め方を身に付けることは、自分の表現に生かして、説得力のある論理的な文章を書くことにもつながる。

これらのことから、「文章の構成や展開をとらえる力」を育てることは意義があると考えられる。

(2) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義

ア 「Gアップシート」とは

「Gアップシート」とは、本県の学力向上に資するよう内容を検討した評価規準(「いわてスタンダード」)に対応した学習シートである。

「いわてスタンダード」とは、学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の評価規準を基に、本県の生徒の実態をふまえて、国語科において生徒に身に付けさせたい「中核となる力」

を明確に示したものである。

本研究で育てたい「文章の構成や展開を育てる力」は、「中核となる力」の「文章の論の展開を理解することができる」「段落相互の関係を理解することができる」「書き手の意図を理解し、論理の構成や展開の仕方を把握することができる」の三つに関連している。

また、「Gアップシート」は、生徒の学習を直接支援するものであり、次のようなことをねらいとしている。

- ・シート問題に取り組むことで、各自の学習の理解や定着の状況が把握できる。
- ・シート問題に取り組むことで、各自の学習課題が把握できる。
- ・シート問題に取り組むことで、補充的な学習や発展的な学習ができる。

イ 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義

授業の導入で、「Gアップシート」に明示された「中核となる力」を示すことによって、生徒は、授業の目標を明確にすることができ、授業の終末で「Gアップシート」を活用することによって、授業での実現状況を把握して、自己評価し、自覚的に学習を進めるために役立たせることができる。自覚的な学習とは、自分の目指すべき目標を理解し、それを意識して学習し、自分の力を確認して次の学習に生かすというように、自分の目標や力を意識して学習を行うことである。また、授業者は、授業の終末において生徒の実現状況を確認することによって、次時の授業や家庭学習の指導等に生かすことができる。

さらに、各「Gアップシート」において身に付ける「中核となる力」をまとめた、単元の「ふり返しカード」を作成することで、生徒に単元全体の見通しや目標をもたせたり、実現状況を把握させて、その後の学習に生かすよう意識させたりすることもできる。

このように、評価規準を基に、授業の目標をより明確にし、学習状況に応じた指導を展開していくことと、生徒自身に実現状況を把握させながら学習に取り組ませることができるため、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れることは、文章の構成や展開をとらえる力を育てるという点で意義がある。

(3) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開

文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習指導では、次のような段階で授業を進めていく。

ア 目標をもつ段階

授業の導入で「Gアップシート」に明示された「中核となる力」を示し、授業の目標をもたせる。また、単元の導入でも、各「Gアップシート」において身に付ける「中核となる力」をまとめた、単元の「ふり返しカード」を活用し、単元全体で身に付ける「中核となる力」を明確にする。

イ 文章の構成と展開のとらえ方を学ぶ段階

次の三段階の指導で、文章の構成と展開のとらえ方を学ぶ。

- (ア) 基本的な構成の説明的文章を例に挙げ、文章構成の三つの形式(頭括式、尾括式、双括式)を指導する。また、形式に沿って文章を書かせる。
- (イ) (ア)の学習を生かして教材文の構成をとらえさせる。また、他の展開と比較しながら、筆者の論理の展開の仕方をとらえさせる。
- (ウ) (ア)の指導の中で書いた文章を、構成・展開の学習を生かして再構成したり、新しい文章を書いたりして、構成や展開をとらえる力を確かにし、有用感を感じさせる。

ウ 実現状況を確認する段階

イの(ア)、(イ)、(ウ)の各指導の後に「Gアップシート」を活用し、実現状況を確認する。それを、その後の学習に生かすよう生徒に意識させ、授業者は、次時の授業や家庭学習の指導に生かす。また、定着が不十分な場合は個別指導を行う。

(ア)の後には、文章構成の形式を確認したり、学んだ形式を意識して文章を書いたりし、構成

をとらえさせる「Gアップシート」を用いる。

(イ)の後には、構成と展開をとらえる力を確かめる「Gアップシート」を用いる。

(ウ)の後には、単元全体を振り返る「Gアップシート」を用いる。

また、各授業と単元の終末では、単元の「ふり返りカード」も活用し、各授業や単元全体での実現状況を把握させる。

(4) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導に関する基本構想図を、【図1】のように作成した。

2 基本構想に基づく手だての試案

(1) 手だての試案作成の観点

基本構想を基に、以下の観点から、手だての試案を作成していくこととする。

ア 目標をもち、学び、振り返るといふ学習サイクルを定着させ、生徒の自覚的な学習に役立てられるようにする。

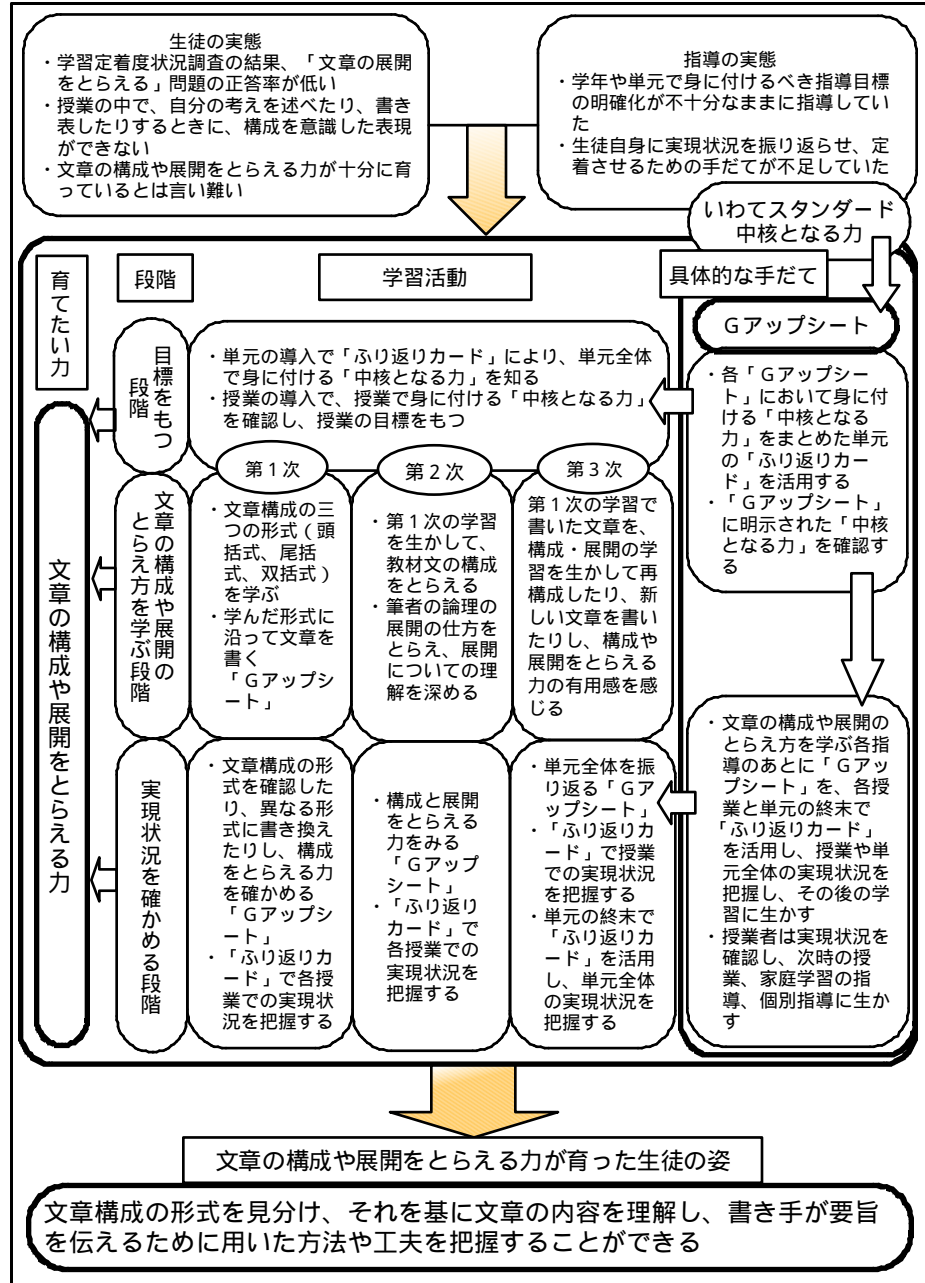
イ 他の説明的文章にも対応できる「文章の構成や展開をとらえる力」を身に付けられるようにする。

(2) 手だての試案

手だての試案作成の観点を基に、指導上の留意点を以下のように考える。

ア 目標をもち、学び、振り返るといふ学習サイクルを定着させ、自覚的な学習に役立てられるようにする工夫

「Gアップシート」に明示された「中核となる力」を、授業と単元の初めに意識させること、授業で学んだことが身に付いたかどうかを「Gアップシート」で確かめること、「ふり返りカ



【図1】中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導に関する基本構想図

ード」で実現状況を振り返り、その後の学習に生かせることを繰り返し行う中で、主体的な学びの姿勢を作らせ、自覚的な学習ができるようにする。

イ どの説明的文章にも対応できる「文章の構成や展開をとらえる力」を身に付けられるようにする工夫

目標をもつ段階、実現状況を確認する段階での「Gアップシート」活用の効果を高め、「中核となる力」を確実に身に付けるために、指導事項を精選し、文章の構成と展開のとらえ方を学ぶ段階での指導を工夫し、どの説明的文章にも対応できる力を身に付けさせる。

一つ目の工夫として、文章を段落毎に切り取ったカードを並べながら構成や展開を考える方法を用いて、文章を動的にとらえさせたり、構成や展開を意識して書く活動を取り入れたりし、「文章の構成や展開をとらえる力」を確実に身に付けさせる。

二つ目の工夫として、板書やワークシートにおいて、色付きのカードを用いたり、色塗りをさせたりし、構成や展開のイメージを視覚的につかませる。

これまで述べてきたことを基に、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案を【表1】のように作成した。また、本単元で使用する「Gアップシート」の内容と活用の仕方を次頁【表2】に示した。

【表1】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案

段階	学習活動	指導の手だて	
		「Gアップシート」の活用	指導上の留意点
目標をもつ段階	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で、本単元で身に付ける「中核となる力」が「文章の構成や展開をとらえる力」であることを知る 第1次から第3次までを通して、各授業の導入で、本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認し、授業の目標をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 各「Gアップシート」において身に付ける「中核となる力」をまとめた単元の「ふり返しカード」を活用し、単元の見直しをもつ 「Gアップシート」に明示された「中核となる力」を確認し、授業の目標をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふり返しカード」が、単元全体の目標と計画を示していること、それを意識して学習に臨み、学習後に力が身に付いたかどうかを「ふり返しカード」を用いて振り返ることが、自分の学習に有効であることを伝える 各授業の導入で、目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階	<p>【第1次】文章構成の形式（頭括弧式、双括弧式）について学ぶ</p> <p>【第2次】教材文の形式を確認し、内容を学ぶ</p> <p>【第3次】学んだ文章の形式を「Gアップシート」に書く</p>	<p>【第1次】学んだ文章の構成や展開を再構成したり、新しい文章を書いたりし、構成や展開の力を有る感を感じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ふり返しカード」が、単元全体の目標と計画を示していること、それを意識して学習に臨み、学習後に力が身に付いたかどうかを「ふり返しカード」を用いて振り返ることが、自分の学習に有効であることを伝える 各授業の導入で、目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
実現状況を確認する段階	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成の形式を正確に書き換える力を確認する 「ふり返しカード」で各授業の実現状況を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体を振り返る「Gアップシート」 「ふり返しカード」で授業の実現状況を把握する 単元の終末で「ふり返しカード」を活用し、単元全体の實現状況を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 「Gアップシート」に明示してある「中核となる力」について再度確認したり、使い方を説明したりし、「Gアップシート」が自分の力を確認するために有効であることを伝え、意識させて取り組ませる まとめの「Gアップシート」と「ふり返しカード」で自分に力が身に付いたかどうかを振り返らせ、その後の学習に生かさせる

【表2】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために活用する各「Gアップシート」の内容と活用の仕方

Gアップシートの番号	活用の仕方		1 目標をもつ段階において、本時の目標となる「中核となる力」を確認するために活用する	2 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階において、読み方を学ぶために活用する	3 実現状況を確認める段階において、実現状況を把握しその後の学習に生かすために活用する
	内容				
Gアップシート	文章構成の形式を確認したり、異なる形式に書き換えたりし、構成をとらえる力を確かめる				
Gアップシート	文章構成の形式を確認したり、形式に沿って文章を書いたりし、構成をとらえる力を確かめる				
Gアップシート	文章を大きなまとまりに分けたり、まとまりの役割を考えたりして、構成をとらえる力を確かめる				
Gアップシート	文章の流れをとらえて文等を挿入したり、筆者の説明の工夫を考えたりして、展開をとらえる力を確かめる				
Gアップシート	単元全体を振り返る				

「注」1の活用の仕方については、実際には、「中核となる力」を一枚にまとめた「ふり返しカード」を使用する
なお、 から まですべての「Gアップシート」は、家庭学習や個別指導にも活用した

(3) 検証計画

授業実践をとおして文章の構成や展開をとらえる力の育成状況をとらえ、その結果により、手だての試案の有効性、仮説の妥当性について分析し、考察する。【表3】は、検証内容と処理・解釈の方法を示したものである。検証にかかわるテスト問題は、【補充資料1】に示す。

【表4】は、記述式のテスト問題の解答から「文章の構成や展開をとらえる力」の育成状況を判断する具体的な姿を示したものである。

【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
力の育成状況	文章の構成や展開をとらえる力	・テスト法により、授業実践の事前、事後に実施する	・t検定（平均の差の検定）を行い、分析・考察する ・問題の問三、問六については、記述内容を【表4】の具体的な姿により判定し、B以上を正答として、他の問題と共に、t検定を行う
		・抽出生徒の「Gアップシート」への取り組み結果、「ふり返しカード」への記述、授業での様子の観察から検証する	・各「Gアップシート」への取り組み結果の変容と、「ふり返しカード」への記述の変容を観察し、考察する ・各段階の学習活動における学習の様子の変容をとらえ、考察する

【表4】文章の構成や展開をとらえる力の育成状況を判断する具体的な姿

検証内容	問題	判断する具体的な姿		
		A	B	C
文章の構成や展開をとらえる力	問三	・自分の言語経験をふまえ、理由を説明している	・キーワードが二つ入っている ・キーワードは用いていないが、文章に即して理由を述べている	・無答である ・文意が読みとれない ・理由として不適切である
	問六	・入れるべきキーワードを二つ入れ、80字～100字で書いている	・キーワードを二つ入れているが、決められた字数との差が20字以内ある ・キーワードを一つしか入れていないが、文意がはっきりしていて、80字～100字で書いている	・無答である ・キーワードを入れていない ・文意が読み取れない ・決められた字数との差が21字以上ある

3 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画

(ア) 対象 花巻市立湯本中学校 第2学年 2学級（男子34名 女子37名 計71名）

(イ) 授業実践期間 平成18年8月30日～9月15日

(ウ) 指導計画 単元「モアイは語る 地球の未来」・・・6時間（次頁【資料1】を参照）

【資料1】単元「モアイは語る 地球の未来」の指導計画（6時間扱い）

時	学習指導目標	学 習 活 動	「Gアップシート」の活用
1	文章構成の形式を理解し、違いを見分けることができる	単元の目標をもつ ・本単元で身に付ける「中核となる力」を「ふり返しカード」で知り、単元の見直しをもつ 【第1次】 授業の目標をもつ ・本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認する 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 文章構成を知る ・文章構成の三つの形式（頭括式、尾括式、双括式）を知る 本時の学習を振り返る ・「Gアップシート」で文章構成の形式が理解できたか確認し、「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る	目標をもつ段階 単元全体で身に付ける「中核となる力」確認 目標をもつ段階 「中核となる力」確認 実現状況を確かめる段階 「Gアップシート」
2	文章の構成を確実に理解することができる	授業の目標をもつ ・本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認する 文章構成の形式を確実に理解する ・学んだ文章構成の形式に沿って文章を書き、文章構成の形式を確実に理解する ・展開の工夫に気付く 本時の学習を振り返る ・「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る	目標をもつ段階 「中核となる力」確認 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 「Gアップシート」 実現状況を確かめる段階 「Gアップシート」
3	文章を読み、文章構成の形式を見分け、文章のおおまかな内容をとらえることができる	【第2次】 授業の目標をもつ ・本時の授業では、新しい文章と出会う、文章構成の形式を確認し、おおまかな内容をとらえ、次時の準備を確認する 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 教材文「モアイは語る」を読む ・文章構成の形式を確認する ・おおまかに内容を確認する ・次時の構成の学習のために、段落毎のカードを作る 本時の学習を振り返る ・「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る	目標をもつ段階 「中核となる力」確認
4	文章の構成をとらえることができる	授業の目標をもつ ・本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認する 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 構成をとらえる力を身に付ける ・前時に作ったカードを用い、教材文を大きく三つに分ける ・「なか」の部分の役割について考えながら、分け方を考える 本時の学習を振り返る ・「Gアップシート」で構成をとらえる力が身に付いたか確認し、「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る	目標をもつ段階 「中核となる力」確認 実現状況を確かめる段階 「Gアップシート」
5	筆者の論理の展開の意図や工夫をとらえることができる	授業の目標をもつ ・本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認する 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 展開の仕方をとらえる ・教材文の「なか」のまとまりの並べ方を考えることを通して、筆者の論理の展開の意図をとらえたり、展開の工夫を学んだりする 本時の学習を振り返る ・「Gアップシート」で展開をとらえる力が身に付いたか確認し、「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る	目標をもつ段階 「中核となる力」確認 実現状況を確かめる段階 「Gアップシート」
6	文章の構成や展開をとらえる力の有用感を感じ、単元で学んだことを振り返ることができる	【第3次】 授業の目標をもつ ・本時の授業で身に付ける「中核となる力」を確認する 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 構成や展開をとらえる力を確かにする ・2時間目に書いた文章を、構成・展開の学習を生かして再構成したり、新しい文章を書いたりすることによって、構成や展開をとらえる力を確かにし、有用感を感じる 本時の学習を振り返る ・「Gアップシート」で構成と展開をとらえる力が身に付いたか確認し、「ふり返しカード」を使って、本時の学習を振り返る 単元全体の実現状況を把握する ・本単元で身に付ける「中核となる力」が身に付いたかを「ふり返しカード」を活用して振り返る	目標をもつ段階 「中核となる力」確認 文章の構成や展開のとらえ方を学ぶ段階 「Gアップシート」 実現状況を確かめる段階 「Gアップシート」 実現状況を確かめる段階 単元全体の実現状況の確認

イ 授業実践の概要

手だての試案に基づいて作成した指導展開案（【補充資料2 - 1】～【補充資料2 - 6】を参照）に従い、授業実践を行った。

8～13頁【資料2 - 1】～【資料2 - 6】は、文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践6時間の概要である。

(2) 実践結果の分析と考察

授業実践をとらえて、手だての試案の有効性をみるために、文章の構成や展開をとらえる力について、テスト問題を作成し、授業実践の前後に同一問題で実施した。その結果について、6頁【表3】の検証計画に基づいて分析・考察し、育成状況をとらえた。

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（1 / 6時間）

目標	文章構成の形式を理解し、違いを見分けることができる	教師の働きかけ	生徒の思考・反応
段階	学習活動	学習の流れ・Gアップシートの活用	指導の手だてと生徒の様子
目標をもち段階	1 本単元で身に付けたい「中核となる力」をふり返りカードで知り、単元の見直しをもつ	<p>このふり返りカードは単元の計画にもなっています。今日の目標は何ですか。</p> <p>今日は構成の形式を勉強するんだな。構成って文章の組み立てのことだったな。</p> <p>文章構成の形式を見分けよう</p> <p>「最も伝えたいこと」をどこに書くかで、三つの形式に分かれます。「なか」には、どんなことを書くのでしょうか。</p> <p>初めにあるから「頭括式」 終わりがあるから「尾括式」か。わかりやすいな。「なか」には理由とか説明が書いてあるようだ。</p> <p>構成の形式がわかるとどんなことがいいたいでしょう。</p> <p>話す時にわかりやすく話せる。 読んだ人にわかりやすく書ける。 大事なことがどこに書いてあるかわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4色の箱を数人の生徒に好きなように並べさせた。文章にもこのように組み立て方が色々あるということをも本単元の導入とした 新しい学習内容、ふり返りカードやGアップシートを使っての学習に興味をもった様子であった 典型的な文例を挙げ、形式を理解させた。文例は一つずつ挙げ、形式の名前を考えさせながら進めた 形式や、構成がわかることの良さの確認のためにワークシート【補充資料5】を用いた 視覚的に構成・展開を意識できるように、色を塗る作業を取り入れた。全時間を通して色のカードを用いたりしながら進めた 形式が十分に理解できたため、構成がわかることの良さにすぐに気付いた生徒が多かった。書く時、話す時、読む時と三つの場合について意見が出された
	文章の構成の形式を知る (1) 文章構成の三つの形式の名称と特徴を知る (2) 形式ごとに「最も伝えたいこと」が書いてある場所を確認する (3) 「なか」に書く内容を知る (4) 構成がわかることの良さを考える	<p>Gアップシートで力試しをしましょう。今日の目標が書いてあります。シートの問題が解決すれば、この力が身に付いているということですよ。</p> <p>自分のできるどころ、できないところをはっきりさせるのは大切なことです。できないことを意識するから力が伸びるのですよ。</p> <p>しっかり覚えたから簡単。</p> <p>結構できたから、今日の家庭学習は 番にチャレンジだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> B評価以上の生徒は87.3% ふり返りカードの使い方と意味を説明した Gアップシートで実現状況をよく把握させ、家庭学習の内容を考えさせた。教師も、次時の授業や個別指導に生かした 家庭学習にパターン（【補充資料8】を参照）を選ぶ生徒が多かった
実現状況を確かめる段階	4 Gアップシートにより、実現状況を確認する		生徒のふり返り
	5 ふり返りカードを使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返る		生徒のふり返り

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（2 / 6時間）

目標	文章構成の形式を確実に理解することができる	教師の働きかけ	生徒の思考・反応
段階	学習活動	学習の流れ・Gアップシートの活用	指導の手だてと生徒の様子
目標をもつ段階	1 本時の学習の目標をもつ	ふり返しカードを見て、今日の目標を確認しましょう。	目標の確認は、慣れてきたため、スムーズにできた
文章の構成や展開のとりえ方を学ぶ段階	2 文章構成の形式を確実に理解する (1) 文例を読み、文章構成の形式を確認する（Gアップシートを使用） (2) 双括弧の形式に沿って文章を書く (3) 双括弧の文章と他の二つの形式の違いを確認する (4) それぞれの形式の良さを考える (5) 展開の工夫について気付く (6) 「チャレンジ問題」に班ごとに取り組む	文章構成の形式を確実に覚えよう 問題文は、使用許諾申請中 Gアップシートの文章と同じ形式で文章を書いてみましょう。自分で書いてみると力が確実にになります。 これは双括弧の文章だ。 形式を意識した人？ 三段で書いた人？ 「初め」「終わり」に「最も伝えたいこと」を書いた人？ 「最も伝えたいこと」に合った「なか」を書いた人？ 頭括弧式や尾括弧式だったらどうなるか、手で隠してみましょう。 「なか」の並べ方もみてみましょう。これ、順番が違ったらどうですか。 新聞の記事もテレビ番組も構成を考えて作っているんだな。	目標の確認は、慣れてきたため、スムーズにできた 前時の復習として、文例の構成を確認したが、見分けられた生徒が多かった ・前時で挙げた文例や色のカードを用いて、構成を確認した 形式が決まっているため、多くの生徒がすぐに書き始めた ・Cの生徒には、前時のワークシートやGアップシートを見直しさせた ・四つの観点で自分の文章を評価させた B評価以上の生徒は67.7% ・書いた文章の一部を手で隠させ、頭括弧式や尾括弧式の文章をイメージさせた ・それぞれの形式に良さがあり、内容や書き手の意図によって適切な形式があることに気づかせた ・本時は、ペアを組み、相手が読んだ文章の構成を当てることで実現状況を把握させた イメージを作っていたため、読む側もすぐに構成を決めて読むことができ、答える側も音声で聞いただけで、形式を答えていた 形式を答えられた生徒は93.8% ・ふり返しを生かし、家庭学習の内容を選択させた 家庭学習はパターンが多かった ・教師は、Gアップシートによって実現状況を確認し、第6時間目の授業構想や家庭学習の指導、個別指導に生かした
実現状況を確かめる段階	3 ペアの相手が読んだ文章の形式を見分けることにより、実現状況を確認する 4 ふり返しカードを使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返る	自分の書いた文章を好きな形式で読み合って、相手の形式を当ててみましょう。 くんが読んだのは、頭括弧だね。 今日もふり返しカードで授業を振り返りましょう。	

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（3 / 6 時間）

目標	文章を読み、文章構成の形式を見分け、文章のおおまかな内容をとらえることができる																																																			
段階	学習活動	学習の流れ・Gアップシートの活用	指導の手だてと生徒の様子																																																	
目標をもつ段階	1 本時の目標をもつ	今日の目標は何でしょう。 文章構成の形式を確認し、内容をおおまかにとらえよう ふり返りカードを見るとわかるな。	構成の授業も3時間目となり、用語にも慣れてきたようだった ・本時は、教材文に出会っておおまかな内容をとらえ、次時以降、教材文の構成や、展開をとらえるための準備をする段階とした																																																	
文章の構成や展開のとりえ方を学ぶ段階	2 教材文を読む (1) 題名について考える (2) 教師の範読を聞く	構成がわかると、「最も伝えたいこと」がすぐわかるという良さがあるのでしたね。この長い文章でも同じことが言えるのでしょうか。 まず「初め」と「終わり」を見つけるんだったな。	・モアイの写真を用いたり、モアイについての知識、疑問等を発表させたりして、教材文への興味を引き出した																																																	
	3 おおまかに内容をつかむ (1) 「初め」と「終わり」の部分を確認する (2) 文章構成の形式の確認をする (3) 文章構成の形式の学習を生かして、「最も伝えたいこと」が書かれているところを見つける (4) 「最も伝えたいこと」を伝えるために、どんなことが述べられているか、おおまかに内容を確認する	問題提起があるから、「初め」はある…。「終わり」はあるかな。 まとめの部分がある。双括弧だな。 やはり、構成の形式を見分けられれば、詳しく読まなくても、筆者の「最も伝えたいこと」をおよそつかむことができるのですね。 ふり返りカードを使って、今日の学習をふり返りましょう。今日は、3時間目ですが、ここまではどうでしょう。目指して頑張りましょう。	ほとんどの生徒がモアイを知っており、疑問等を挙げながら、興味をもって、教材文の読みに入っていた ・既習内容を生かさせ、構成がわかることの良さを実感させながら、構成の形式を見分けさせるよう努めた ・構成の形式は、文章の長短に関係ないこと、各々の文章に依らず、どの文章でも、同じ方法で形式を見分けることができることを活動から実感させるように段階を踏ませた ・Cの生徒には、第一時間目に使用した文章構成を説明したワークシートやGアップシートを見直しさせながら、もう一度、文章構成の形式を確認させた																																																	
	4 本時の学習を振り返る	モアイは語る一歩の未来 (説明文) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>Gアップシート</th> <th>授業の目標</th> <th>できたところ</th> <th>できなかったところ</th> <th>達成度</th> <th>家庭学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9/7</td> <td>読6 説明文①</td> <td>文章構成の形式を見分けよう</td> <td>①文章の構成の形式を覚えた</td> <td>②「初め」と「終わり」の部分を覚えた</td> <td>○</td> <td>④</td> </tr> <tr> <td>9/8</td> <td>読7 説明文②</td> <td>文章構成の形式を確実に覚えよう</td> <td>①双括弧で書くよう意識した。 ②完成した文章は三段構成になっている。 ③「初め」と「終わり」に、最も伝えたいこと（「初め」は説明理由でもよい）を書いた。 ④「なか」には、「最も伝えたいこと」に合った根拠、説明、具体例等を書いた。 ⑤ペアで文章を読み合ったときに、形式を当てることができた。</td> <td>①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。</td> <td>○</td> <td>⑤</td> </tr> <tr> <td>9/11</td> <td>読8 説明文③</td> <td>文章構成の形式を確認し、内容をよく読みとらえよう</td> <td>①「モアイは語る」の文章構成の形式がわかった。 ②「最も伝えたいこと」がどこに書かれているか見つけられた。 ③おおまかな内容がつかめた。</td> <td>①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。</td> <td>○</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>9/12</td> <td>読9 説明文④</td> <td>文章の構成をとらえよう</td> <td>①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。</td> <td>①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。</td> <td>○</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>9/13</td> <td>読10 説明文⑤</td> <td>文章の構成をとらえよう</td> <td>①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。</td> <td>①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。</td> <td>○</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>9/14</td> <td>読11 説明文⑥</td> <td>文章の構成をとらえよう</td> <td>①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。</td> <td>①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。</td> <td>○</td> <td>⑨</td> </tr> </tbody> </table>	日付	Gアップシート	授業の目標	できたところ	できなかったところ	達成度	家庭学習	9/7	読6 説明文①	文章構成の形式を見分けよう	①文章の構成の形式を覚えた	②「初め」と「終わり」の部分を覚えた	○	④	9/8	読7 説明文②	文章構成の形式を確実に覚えよう	①双括弧で書くよう意識した。 ②完成した文章は三段構成になっている。 ③「初め」と「終わり」に、最も伝えたいこと（「初め」は説明理由でもよい）を書いた。 ④「なか」には、「最も伝えたいこと」に合った根拠、説明、具体例等を書いた。 ⑤ペアで文章を読み合ったときに、形式を当てることができた。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑤	9/11	読8 説明文③	文章構成の形式を確認し、内容をよく読みとらえよう	①「モアイは語る」の文章構成の形式がわかった。 ②「最も伝えたいこと」がどこに書かれているか見つけられた。 ③おおまかな内容がつかめた。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑥	9/12	読9 説明文④	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑦	9/13	読10 説明文⑤	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑧	9/14	読11 説明文⑥	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑨
日付	Gアップシート	授業の目標	できたところ	できなかったところ	達成度	家庭学習																																														
9/7	読6 説明文①	文章構成の形式を見分けよう	①文章の構成の形式を覚えた	②「初め」と「終わり」の部分を覚えた	○	④																																														
9/8	読7 説明文②	文章構成の形式を確実に覚えよう	①双括弧で書くよう意識した。 ②完成した文章は三段構成になっている。 ③「初め」と「終わり」に、最も伝えたいこと（「初め」は説明理由でもよい）を書いた。 ④「なか」には、「最も伝えたいこと」に合った根拠、説明、具体例等を書いた。 ⑤ペアで文章を読み合ったときに、形式を当てることができた。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑤																																														
9/11	読8 説明文③	文章構成の形式を確認し、内容をよく読みとらえよう	①「モアイは語る」の文章構成の形式がわかった。 ②「最も伝えたいこと」がどこに書かれているか見つけられた。 ③おおまかな内容がつかめた。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑥																																														
9/12	読9 説明文④	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑦																																														
9/13	読10 説明文⑤	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑧																																														
9/14	読11 説明文⑥	文章の構成をとらえよう	①文章の内容をよく読みとらえた。 ②文章の構成がわかった。	①「初め」の部分がわからなかった。 ②「終わり」の部分がわからなかった。 ③「なか」の部分がわからなかった。	○	⑨																																														
現状を確かめる段階	5 次時の学習の準備として、教材文を段落ごとに切り、カードを作る	昨日までに構成をしっかり覚えたと思ったけど、長い文章では、少し難しいな。 でも、基本は同じなんだな。																																																		
6 次時の授業の内容を確認する																																																				

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（4 / 6時間）

目標	文章の構成をとらえることができる	教師の働きかけ	生徒の思考・反応
段階	学習活動	学習の流れ・Gアップシートの活用	
目標	1 本時の目標をもつ	「モアイは語る」の構成をもう少し詳しく見ていきましょう。	
を	2 教材文で、構成のとらえ方を学ぶ	文章の構成をとらえよう	
も	(1) 文章構成の形式を確認し、「初め」と「終わり」のカードを見つけ、役割を確認する	今日は、昨日作ったカードを使って学習します。まず、「初め」と「終わり」を見つけましょう。	「初め」は問題提起。「終わり」はまとめを書いているから、すぐわかる。
つ	(2) 「なか」の内容と、「なか」にあるまとまりの数を考える	「なか」には、どんなことが書いてあるでしょう。まとまりはいくつあるでしょう。	「初め」が問題提起だからその答えです。問題が四つあるから、まとまりは四つあります。
段	(3) 「初め」で提起された四つの問題ごとに、答えになっているカードをまとめていく	カードを、問題毎に分けていきましょう。4枚の台紙の上に並べてください。終わったら、グループで話し合しましょう。	
階	(4) グループ毎に話し合う		
文章	(5) 問題毎にまとめたカードを、文脈を考えて順番に並べる		
の	(6) グループ毎に話し合う	では、どのように分けたか確認しましょう。	「『ころ』を使った」と書いてあるから、「どのようにして運んだか」に入るよね。
構成	(7) グループ毎の並べ方を発表し、一つにまとめる		
や	(8) 異なる文章構成の形式で書いた場合との違いに気付かせる		
展開	3 Gアップシートで、実現状況を確認する	問題文は、使用許諾申請中	
の	4 ふり返しカードを使って、本時で身に付けた「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返る		
確		Gアップシートで構成をとらえる力がついたか確かめましょう。	大きなまとまりに分けられるようになってきた。「なか」に書いてある例の数もつかめた。違う問題でも試したいから、今日の家庭学習はだな。
か			
め			
る			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			
標			
を			
も			
つ			
段			
階			
目			

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（5 / 6時間）

目標	筆者の論理の展開の意図や工夫をとらえることができる	教師の働きかけ	生徒の思考・反応
段階	学習活動	学習の流れ・Gアップシートの活用	指導の手だてと生徒の様子
目標をもちつつ段階	1 本時の学習の目標をもち	<p>文章の展開をとらえよう</p> <p>展開というのは、どんなのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時でカードを貼った台紙を、実際に並べ替えて、展開を考えさせた 実際に並べながら考えたため、並べ方による違いを実感することができ、集中して活動していた。しかし、感覚的に並べてはいても、理由を書くことができない生徒も多かった
文章の構成や展開の意図をとらえ方を学ぶ段階	2 筆者の論理の展開の意図をとらえる	<p>展開とは、筆者が何かを伝えるための「説明の工夫や説得の方法」のことです。</p> <p>「なか」をどう並べれば、「初め」の答えがわかりやすく、「終わり」の内容もしっかり読み手に伝わるのでしょうか。1番いい並べ方を考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Cの生徒には、まとめごと読み直しをさせ、改めて内容をとらえさせた話し合いによって、自分の並べ方の理由に気付くことができた生徒もいた
	(1) 「なか」の四つのまとまりの効果的な並べ方とその理由を考える	<p>「...だった。...した。」が多い。結果が書いてあるから、最後だな。</p> <p>並べてはみたけど、理由が書けない...</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループから出された意見は、これまで使ってきた色を用いて板書した
	(2) グループ毎に話し合う	<p>筆者の並べ方と比べてみましょう。筆者はどんな意図でこう並べたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「なか」の並べ方について学習するのは初めてで、十分に考えが深められない生徒も多かったため、教師からの説明も加えた
	(3) グループ毎の考えを発表し、意見を述べ合う	<p>筆者は、結果を最後にもってくることで、読者が最後まで読みたくなるような順序にしたと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表情やふり返りカードの記述から見て、Aの生徒の発言や教師の説明によって、並べる順番の大切さや筆者の意図に気付いた生徒が多かった
	(4) 筆者の並べ方と自分たちの並べ方とを比較し、筆者の論理の展開の意図を考える	<p>筆者は、イースター島に起こった出来事と今の地球の様子を結び付けたかったからこの順序にしたのだと思う。</p> <p>筆者は、読み手によく伝わるように、構成や展開をよく考えて文章を書いているのですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Cの生徒には、Gアップシートを読み直させた
実現状況を確かめる段階	3 教材文の構成と展開についてまとめる	<p>展開をとらえる力がついたか、Gアップシートで確かめましょう。</p> <p>問題文は、使用許諾申請中</p>	<ul style="list-style-type: none"> B評価以上の生徒は83.1% Gアップシートで実現状況をよく把握させ、家庭学習の内容を考えさせた。教師も、次時の授業や個別指導に生かした
	4 Gアップシートにより、実現状況を確認する	<p>ふり返りカードを使って、本時で身に付けた「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返る</p> <p>ふり返りカードで今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>やっぱり、並べ方の意図を答えるのは難しいな。今日の家庭学習は 1番だな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習はパターンを選んだ生徒が多かった 生徒のふり返り 筆者の工夫がわかった 文章の流れをつかんで、文を入られた 順番の大切さがわかった 並べた理由を書けなかった

【資料2 - 】文章の構成や展開をとらえる力を育てるために「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（6 / 6時間）

目標	文章の構成や展開をとらえる力の有用感を感じ、単元で学んだことを振り返ることができる	
段階	学習活動	教師の働きかけ 生徒の思考・反応
目標をもつ段階	1 本時の学習の目標をもつ	<p>学習の流れ・Gアップシートの活用</p> <p>いよいよ最後の授業です。今日の目標は何ですか。</p> <p>今までのまとめだな。頑張ろう。</p> <p>文章の構成や展開をとらえる学習のまとめをしよう</p> <p>2時間目に書いた文章の「なか」を意図的に並べ替えて作文を練り直しましょう。</p> <p>前書いた時は順番なんて考えなかった。昨日のように並べる順番を工夫するんだな。</p>
文章の構成や展開のとりえ方を学ぶ段階	<p>2 第2時間目に自分が書いた文章を、構成・展開の学習を生かして再構成する</p> <p>(1) 自分が書いた文章を読み直し、「なか」の並べ方について考えて再構成する</p> <p>(2) ペアを組み、再構成前と後の文章の違いや、変えたことによる効果を伝え合う</p>	<p>指導の手だてと生徒の様子</p> <p>授業の初めに、ふり回りカードを見て授業の目標を確認することに慣れ、自主的に行っていた</p> <p>意図した効果が現れない展開になった生徒もいたが、前時の学習から、「なか」の並べ方の大切さを理解し、自分なりに明確な意図をもって並べようとしていた</p> <p>Cの生徒にはGアップシートを参考にさせたペアの相手の文章を読み、展開を工夫することの大切さや効果を感じていた文章を書く速さが、前回より速くなったことを実感していた。それが、構成と展開を学習した成果であることも自覚できていた</p> <p>本単元で身に付けるべき「中核となる力」を確認し、単元全体の総復習的な問題であることを意識させながら取り組ませた</p> <p>Cの生徒には、これまでのワークシートやGアップシートを振り返らせながら、取り組ませた</p> <p>B評価以上の生徒は90.9%</p> <p>Gアップシートで実現状況をよく把握させ、家庭学習の内容を考えさせた。教師も個別指導に生かした家庭学習はパターンを選んだ生徒が多かった</p> <p>ふり回りカードを活用し、本時、本単元で身に付けるべき「中核となる力」が身に付いたか、実現状況を把握させ、これからの努力点や目標等を考えさせた</p> <p>最初の作文</p> <p>再構成後</p> <p>展開の効果についての相手からの意見を参考に、作文を書いてみましょう。</p> <p>最後のGアップシートです。この単元全体の力試しをしましょう。</p> <p>問題文は、使用許諾申請中</p> <p>構成の問題には、自信がなかったぞ。</p>
実現状況を確かめる段階	<p>4 Gアップシートにより、実現状況を確認する</p> <p>5 本時の学習を振り返る</p> <p>6 単元全体の学習を振り返る</p>	<p>単元全体をふり返りましょう。この単元で力がついたこと、まだ自信のないところをはっきりさせ、今後の学習に生かしましょう。</p> <p>生徒の単元全体のふり返り</p> <p>力がついたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式を見分けられるようになったこと ・最も伝えたいことを速く押さえることができた ・「なか」の部分を前よりうまく書けるようになった ・説明文が読めるようになった <p>まだ自信のないところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なか」の並べ方の理由が書けない ・文章の流れを考えて、文を入れる問題に自信がない ・大事なところはわかるが、要旨がまとめられない <p>これから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが読み取れるようになったので、いろいろな文章を読んでみたい ・学んだことを作文を書くときに生かしたい ・形式を選んで文章を書きたい

ア 文章の構成や展開をとらえる力の育成状況 【表5】文章の構成や展開をとらえる力の育成状況

文章の構成や展開をとらえる力の育成状況について、t検定を行った結果を【表5】に示した。検定の結果、有意差が認められた。

【表6】は設問毎の正答率の変化を示したものである。次頁【図2】と16頁【図3】は、12問のうち、記述式で解答する2問の問題の解答について、6頁【表4】に示した文章の構成や展開をとらえる力の育成状況を判断する具体的な姿に基づき、分析した結果をまとめたものである。

最も大きな伸びがあった問題は、問3の「なか」に書かれた例の順序について筆者の意図を問う、「展開をとらえる力」に関する問題である。事前テストでは正答率が50.0%であったが、事後テストでは77.3%と、27.3ポイント増えた。

生徒は、これまでに文章の構成を学び、文章の「終わり」の部分に「最も伝えたいこと」が書かれていることが多いことはおよそ理解している。しかし、授業での反応や「ふり返しカード」の記述から見ると、「なか」の部分においても、筆者が意図的に順序を決めているということに考えが及ばない生徒が多く、これまでに展開を考えて文章を書いたり、展開の効果を感じながら読んだりすることは少なかったと思われる。そのため、事前テストでは、十分に順序の意図を考慮することができなかつたと考えられる。さらに、問題の意味を理解することができない生徒も見受けられた。

しかし、事後テストでは、正答率が大きく伸びた上、意図を正確に答えられない生徒でも、その順序に筆者のなんらかの意図があることに気付くことができていた。さらに、記述の内容から見てみると、次頁【図2】からもわかるように、筆者の意図を自分の体験につなげて説明できる生徒（Aと判断される生徒）が、6.1%から21.2%と15.1ポイント増えた。

このように「展開をとらえる力」の伸びが見られたのは、以下の理由からと考えられる。

一つ目に、目標をもつ段階において、その授業で身に付ける「中核となる力」を明確にし、生徒自身が目標をもって授業に臨んだことが挙げられる。「文章の展開をとらえよう」という目標を「ふり返しカード」で確認し、「展開」とは何かもこの段階で示した。そのことによって生徒は、何を学習するのかを明確にすることができた。

二つ目に、構成と展開のとらえ方を学ぶ段階において、「中核となる力」を身に付けるために指導事項を精選し、工夫した指導を行ったことが挙げられる。「展開」について指導した5時間目は、「なか」を並べる順序には筆者の意図があることに気付かせ、その効果を感じさせる指導を行った。教材文の「なか」の四つのまとまりをカードにし、実際に動かしながら、「初め」と「終わり」で述べていることを伝えるための、「なか」の効果的な展開を考えさせた。さらに、筆者の展開と比較させたが、この学習の中で生徒は、展開の工夫の大切さや効果について理解していた。また、事後テストの解答を見ると、自分の体験につなげて説明できる生徒（Aと判断される生徒）が増えたのは、これまで、効果的な展開の文章を読んだり、聞いたり、自分で表現したりしていても、それ

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
文章の構成や展開をとらえる力	8.17	2.43	9.70	2.29	0.72	6.99	*

「注」1 事前テストは9月1日、事後テストは9月15日に実施した
 2 有意差の欄の*は、t検定において、有意水準5%で有意差があることを示している
 3 設問は12問で、1問につき1点、12点満点とした
 4 Nは総数を表す
 5 t検定に用いた公式は、次のとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2}{n-1} - 2rS_1S_2}}$$

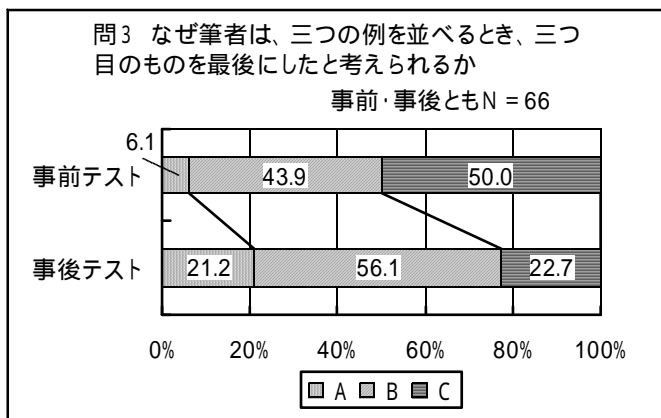
\bar{X}_1 と \bar{X}_2 は事前と事後テストの平均点、
 S_1 と S_2 は事前と事後テストの標準偏差、
 r は相関係数、 n は人数を表す

【表6】事前事後テストの設問毎の正答率の変化

	問1		問2			問3	問4	問5			問6	
	ア	ウ	一問	二問	三問			初め	なか	終わり	番号	要旨
事後	97.0	69.7	83.3	86.4	84.8	77.3	77.3	93.9	90.9	89.4	78.8	40.9

が無意識に行われていたものが、展開について学習したことによって、初めて、文章の展開の効果を感じた経験があったことに気付いた生徒がいたためと考えられる。

三つ目に、実現状況を確認する段階において、学んだことと類似した問題に取り組み、その結果を振り返ったことが挙げられる。学んだことが確実に身に付いたかどうかを「Gアップシート」と「ふり返しカード」によって振り返らせ、実現状況を確認させた。さらにその後の学習に生かさせた。正解すれば、確かな力が身に付いていることがわかり、解けなかった場合は、家庭学習等、その後の学習に生かすことができる。実際に、この5時間目の授業の日の家庭学習には、パターン（似ている問題の違うシートをやる）を選択し、取り組んだ生徒が多かった。



【図2】記述式の設定問の正答率の変化（問3）

このような学習の流れにより、文章の展開には筆者の意図があることを学び、意図的な展開の効果を実感することで、「展開をとらえる力」を伸ばすことができた。しかし、文章によって、展開の効果は異なるため、さらに、「Gアップシート」のような類似の問題に多く触れ、各々の異なる文章の内容や特徴をつかみながら、より力を伸ばしていく必要がある。

次に大きな伸びを示したのは、問6の二つ目の設問である。一つ目の設問で選んだ「最も伝えたいこと」が書かれた段落の言葉を使い、「最も伝えたいこと」を文章にまとめるという「構成をとらえる力」に関する問題である。これは、構成をとらえ、それを生かして内容を理解し、まとめるという応用問題である。事前テストでは16.7%であったが、事後テストでは40.9%と、24.2ポイント増えた。

文章構成がしっかりしている文章の場合、文章構成の形式が理解できていれば、「初め」と「終わり」の部分に「最も伝えたいこと」が述べられていることがわかる。しかし、事前テストの際に、それが十分に理解され、意識されていなかったため、問6の一つ目の設問において、適切な段落を選ばず、そのため「最も伝えたいこと」もまとめることができなかつたと考えられる。

しかし、事後テストでは、問6の一つ目の設問と共に大きく伸びている。さらに、記述の内容から見ると、次頁【図3】からもわかるように、キーワードを押さえ、「最も伝えたいこと」をまとめられる生徒（Aと判断される生徒）が1.5%から21.2%と19.7ポイント増えた。

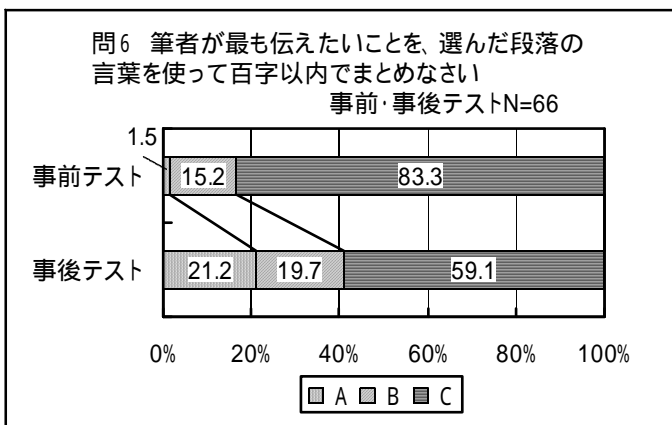
この問題と同様に、「構成をとらえる力」の伸びがわかる設問は、問2の構成をとらえ、それを生かして内容を要約する問題、問5のまとめりごとの内容を把握する問題である。問2は小問3問の平均が約75%だったものが、約85%に伸びている。問5も小問3問の平均が約81%だったものが約91%に伸びている。

このように「構成をとらえる力」の伸びが見られたのは、以下の理由からと考えられる。

一つ目に、「展開をとらえる力」と同様、目標をもつ段階において、その授業で身に付ける「中核となる力」を明確にし、生徒自身が目標をもって授業に臨んだことが挙げられる。「構成をとらえる力」を4時間で指導したが、目標を細分化し、1時間毎に具体的な目標を示したため、生徒は目標を明確にすることができた。これにより、実現状況を振り返る視点も明らかになった。

二つ目も、「展開をとらえる力」と同様、構成と展開のとらえ方を学ぶ段階において、「中核となる力」を身に付けるために指導事項を精選し、工夫した指導を行ったことが挙げられる。1時間目では、「文章構成の形式を見分けよう」という目標を設定し、指導事項を精選して、三つの文章構成の形式だけを指導した。2時間目は「文章構成の形式を確実に覚えよう」という目標で、前時に覚えた形式を用いて、実際に作文を書かせた。このことによって、読む力と書く力がつながり、文章構成の形式が実用性のあるものとして身に付き、生徒は、構成がわかることの良さを実感していた。3, 4

時間目は、前時までに学んだことを教材文に当てはめて学習した。それまで用いた文例に比べ、何倍も長い教材文でも、構成の基本は同じであることを確認し、どのような文章にも対応できるように指導した。問2の設問には、2, 4時間目の指導の効果が現れていると考えられる。事前テストでは、「なか」に書かれた例を、大きく三つととらえることができず、一つの例の中の、小さな例を三つ挙げている生徒も多かった。しかし、双括弧の文章とは、大きく「初め」「なか」「終わり」というまとまりに分けられ、その「なか」の部分にいくつかの例や理由等が述べられているという形式がよく理解できたため、事後テストでは、「なか」の部分を適切に判断し、そこで挙げられている例を三つにまとめることができたと考えられる。問5には、1～3時間目の指導の効果が現れていると考えられる。文例や教材文で、文章構成の形式について繰り返し学習したことによって力が伸びたと考えられる。問6は、1～3時間目で学んだ文章構成の形式が理解できたこと、また、そのことにより「最も伝えたいこと」を把握できるようになったことによって、正答することができたと考えられる。



【図3】記述式の設問の正答率の変化（問6）

三つ目も、「展開をとらえる力」と同様に、実現状況を確認する段階において、学んだことと類似した問題に取り組み、その結果を振り返ったことが挙げられる。このような学習の流れにより、文章を読む時に、叙述に即した細かい読み取りを行わなくても、文章を概観して大きなまとまりでとらえることができ、「最も伝えたいこと」もとらえることができるようになった。しかし、今回学習した基本的な構成ではない文章も多いため、さらに「Gアップシート」のような類似の問題に多く取り組み、様々な構成の文章に慣れ、内容の理解や自分の表現に役立てながら、より力を伸ばしていく必要がある。また、【図3】からわかるように、問6の二つ目の設問は大きく正答率が伸びてはいるが、事後テストにおいて、Cと判断される生徒が59.1%おり、十分な正答率とは言えない。これは、今回の学習により、「最も伝えたいこと」が書かれた部分を見つけることはできるようになったが、それをまとめて表現する力は十分育っていないためと考えられる。構成をとらえることにより、「最も伝えたいこと」もとらえられるようにならなくてはならないが、そのためには、表現する力を育てるための他の手だても必要だと思われる。

その他、問1の論の述べ方の工夫を答える問題、問4の大段落に分ける問題も含め、全ての問題において、正答率が上がった。

これらのことにより、生徒は、文章構成の形式を見分け、それを基に文章の内容を理解し、書き手が要旨を伝えるために用いた工夫をとらえ、構成がわかることや展開を工夫することの意義も理解できるようになったと考える。これらのことから、文章の構成と展開をとらえる力は、おおむね育成されたと考える。

イ 抽出生徒の育成状況

17～18頁【資料2】は、文章の構成と展開をとらえる力の育成状況を、抽出生徒の学習の様子から考察したものである。学力を向上させるための個に応じた手だてとして、「Gアップシート」の有効性を具体的に見るために、抽出生徒の育成状況をとらえた。

抽出生徒は、事前テストの結果から分けた、中位群（6～9問正解）、下位群の上（4～5問正解）、下位群の下（0～3問正解）の中から、顕著な力の高まりが見られた生徒をそれぞれ一人ずつ抽出した。

抽出生徒の「Gアップシート」への取り組み結果、「ふり返しカード」への記述、ワークシートへの記述等から見た授業への取り組み状況について分析を行ったところ、事後テストの際に見られ

【資料2】抽出生徒の育成状況

A児		問1			問2			問3	問4	問5			問6		正答数
事前テスト		ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨	(12問中)	
1時間目	(1) 形式を覚えた。達成チェック (2) 全問正解 (3) (4) 構成がわかることの良さが理解できた。意欲的に取り組んでいた。													3	
2時間目	(1) 5つの質問のうち5つ、達成チェック (2) 「なか」から、理由を3つ読み取れるが、3つを段落に分けていなかったり、文の組み立てが間違ったりして、読みにくい。 (3) (4) それぞれの構成の形式の良さが理解できた。														
問3目時	(1) 3つの質問のうち3つ、達成チェック (3) 全員音読2回														
4時間目	(1) 問題毎に4つに分けることができた。達成チェック (2) 全問正解 (3)														
5時間目	(1) モアイの文章は、並べ替えることができたが、Gアップシートの並べた理由を書く問題はわからなかった。達成チェック (2) 3 / 5正解 できなかつた問題と似ている問題に家庭学習で取り組もうとしている。 (3) (4) 手がかりとなる表現に線を引き、つながりを考えて台紙を並べていた。筆者の意図をとらえていた。														
6時間目	(1) チャレンジ問題がほとんど合っていた。文章の流れをつかんで文を入れる問題ができなかった。達成チェック (2) 6 / 10正解 この日もふり返りを生かして家庭学習を選択している。 (3) 作文の再構成... 「なか」をナンバリングし、3段落で書いている。テーマ作文...再構成の時に学んだことを生かして、確かな構成、意図的な展開で作文している。														
ふ単り元返のり	構成がわかって、文が書けるようになった。文をもっとくわしく書けるようにしたい。この6時間で学んだことを、国語や他の教科に役立てていきたい。														
事後テスト		問1			問2			問3	問4	問5			問6		正答数
		ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨	(12問中)	
							B							10	

《考察》

- ・ 1、4時間目は、授業の中で力を付けてきたが、5時間目は、「並べた理由」がわからなかったと振り返り、家庭学習に生かしている。6時間目も同様にふり返りを生かし、家庭学習の内容を選択している
- ・ 2時間目と6時間目の作文を比較すると、構成をとらえる力についても展開をとらえる力についても、力の高まりが感じられる
- ・ 単元のふり返りでは、他教科にもこの学習を役立てたいという目標をもっている
- ・ 事前・事後テストを比較してみると、筆者の論の展開の仕方について、よく理解できるようになっている。また、文章を大きなまとまりに分け、それぞれのまとまりの内容をつかんでおり、構成をとらえる力が身に付いたと考えられる

構成や展開の学習が生かされている。

B児		問1			問2			問3	問4	問5			問6		正答数
事前テスト		ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨	(12問中)	
1時間目	(1) 形式を3つ覚えることができた。達成チェック (2) 全問正解 (3) (4) 構成がわかることの良さが理解できた。													5	
2時間目	(1) 5つの質問のうち5つ、達成チェック (2) 「なか」に理由を3つ書いているが、段落分けができていない。文例を参考にし、十分構成を意識して書いていない。 (3) 未提出 (4) それぞれの構成の形式の良さが理解できた。構成をとらえる力が身に付いている。														
問3目時	(1) 3つの質問のうち3つ、達成チェック (3) 全員音読2回														
4時間目	(1) 全問正解できた。達成チェック (2) 全問正解 (3)														
5時間目	(1) 展開をとらえられた問題もあったが、文章の流れを読めない問題もあった。達成チェック 展開の効果を十分に感じられなかったため、教材文だけで学んだためではないか。 (2) 3 / 5正解 (3) (4) 手がかりとなる表現に線を引き、効果を考え台紙を並べていた。筆者の意図もとらえていた。														
6時間目	(1) 「なか」の内容をとらえることができた。提示された話題を見つけれなかった。達成チェック 5時間目の課題が克服できていない。 (2) 8 / 10正解 (3) 未提出 作文の再構成... 「なか」をナンバリングし、3段落で書いている。テーマ作文...確かな構成で書いているが、意図的な展開ができていない。														
ふ単り元返のり	構成の形式を知ることができた。文章の展開をとらえることに少し自信がない。構成のことについて知ることができたので、作文を書くときに生かしていきたい。展開をとらえる問題ができています。														
事後テスト		問1			問2			問3	問4	問5			問6		正答数
		ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨	(12問中)	
							B							10	

児童 事前テスト	問1		問2			問3	問4	問5			問6		正答数 (12問中) 8				
	ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨					
1 時間目	(1) 構成がよく分かって良かった。達成チェック (2) 全問正解 (3) (4) 構成がわかることの良さが理解できた。意欲的に取り組んでいた。							《考察》 ・4時間目のふり返りを見てみると、「できたところ」「できなかったところ」を丁寧に振り返ることができている。それが、家庭学習にも生かされている。Gアップシートのふり返りの丁寧さと、実現状況をその先の学習に生かすことで、力を伸ばしていると考えられる ・2時間目と6時間目の作文を比較すると、構成をとらえる力はもともとあったが、さらに、意図的な展開を考えて文章を書けるようになっており、力の高まりが感じられる ・単元のふり返りでも、自分が自信のないところをよく理解しているため、各授業のふり返りと同様に、今後の学習に生かせば、さらなる力の高まりが期待できる ・事後テストでは、事前テストでできなかった4問も正解し、全問正解であった。文章の構成と展開をとらえる力が十分に育ったといえる									
2 時間目	(1) 5つの質問のうち4つ、達成チェック (2) 指定した通りの構成で書いている。「なか」は3段落で書いているが、接続語がうまく活用されておらず、つながりがよくない。 (3) (4) それぞれの構成の形式の良さが理解できた。																
問3 目時	(1) 3つの質問のうち2つ、達成チェック (3) 全員音読2回																
4 時間目	(1) 話題提起の部分を見つけられるようになった。説明の部分が見つけられなかった。達成チェック (2) 4/6問正解 (3)												振り返りが丁寧である。それを生かして家庭学習を選んでいる。				
5 時間目	(1) 展開をきちんととらえることができた。達成チェック (2) 全問正解 (3) (4) 手がかりとなる表現に線を引き、つながりを考えて台紙を並べた。筆者の意図をとらえていた。												展開をとらえる力が伸びている。				
6 時間目	(1) まとめがしっかりできた。筆者が伝えたいことをまとめることができなかった。達成チェック (2) 5/10正解 (3) 作文の再構成...「なか」をナンバリングし、3段落で書いている。テーマ作文...再構成の時に学んだことを生かして、確かな構成、意図的な展開で作文している。												自分の得意なところ、自信のないところをよく理解している。				
ふ単 り元 返の り	3つの構成が分かり、3つの構成の文章を書けるようになった。「なか」の理由は書けるが、その理由を効果的に並べること。まだ自信のない「理由を並べること」をこれからの学習で自信をもてるようにしたい。																
事後テスト	問1		問2			問3	問4	問5			問6		正答数 (12問中) 12				
	ア	ウ	一つ目	二つ目	三つ目			初め	なか	終わり	段落	要旨					
						B					B						

「注」

- 抽出生徒については、Aは下位の下の生徒、Bは下位の上の生徒、Cは中位の生徒である
- (1)は「ふり返りカードへの記述」、(2)はGアップシートの結果、(3)は選択した家庭学習、(4)は授業の様子
- 「ふり返りカード」の「達成チェック」と、「単元のふり返り」の記号の意味は【補充資料4】のとおりである
- 家庭学習の～が指す内容については【補充資料8】のとおりである
- 表中の下線は達成できていないことを示している部分
- 事前・事後テストの は、正解だった問題。 は、事前テストでは不正解だったが事後テストで正解した問題

た顕著な力の高まりは、抽出生徒の育成に「Gアップシート」の活用が有効に働いたためと考えられる。

以上、文章の構成と展開をとらえる力の育成状況について検証してきた。その結果、文章の構成や展開をとらえる力の高まりが確かめられ、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案に基づく学習指導は、文章の構成や展開をとらえる力の育成に効果があったと考えられる。

4 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 身に付けたい「中核となる力」が焦点化された「Gアップシート」を活用することで、生徒が明確な目標をもって授業に臨むことができ、授業者も指導事項を精選し、「中核となる力」を焦点化した、読み方を指導する授業を組み立てることができた。

イ 文章の構成と展開のとらえ方を学ぶ段階において、文章の読み方の指導を、文章を動的にとらえさせたり、視覚的につかませたりする等工夫して行ったことによって、文章の構成や展開をとらえる力を育てることができた。

ウ 「Gアップシート」を授業の終末で活用したことによって、実現状況が把握でき、その後の指導や学習に生かすことができた。

エ 「ふり返しカード」を、各授業と単元の導入と終末で用いたことで、目標をもち、学び、振り返るという学習サイクルが定着し、生徒の自覚的な学習が促され、「Gアップシート」のより効果的な活用ができた。

オ 「Gアップシート」は、授業において活用するだけでなく、家庭学習や個別指導等、多様な場面で活用できることがわかった。

(2) 課題

ア 構成や展開を学んだことにより、「最も伝えたいこと」が述べられている部分は見つけられるようになったが、「最も伝えたいこと」をまとめる力は、まだ十分に育っていない。まとめる力を育てるためには、さらに、表現する力を育てるための他の手だても必要である。

イ 授業の中で力を伸ばしきれなかった生徒への対応として、授業以外での個別指導を行ったが、十分な成果が確認できなかった。「Gアップシート」によって明らかになった個々の課題に応じて、より具体的な指導の手だてを工夫する必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案は有効であり、構成や展開をとらえる力を育てることに効果があったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、「Gアップシート」を活用した学習活動をとおして、文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導の在り方について明らかにし、中学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のようなことが得られた。

(1) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本構想の立案

中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための基本的な考え方や、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れる意義と「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想に基づいた、手だての試案作成上の観点を基にして、「Gアップシート」を用いた学習活動を取り入れた手だての試案を作成した。一単位時間における、目標をもつ段階、実現状況を確認する段階での「Gアップシート」の活用の仕方、また、その段階をつなぐ文章の構成と展開のとらえ方を学ぶ段階での指導の工夫について示すことができた。

(3) 授業実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいた授業実践により、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案が、生徒の文章の構成や展開をとらえる力を育てる上で効果があることが分かった。また、実践結果の分析と考察により、文章の構成や展開をとらえる力の育成が認められ、手だての試案が有効であることが確かめられた。

(4) 中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てるための研究のまとめ

中学校第2学年国語科における文章の構成や展開をとらえる力を育てる学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後さらに生かすための課題として、次のようなことが考えられる。

(1) 他の領域における、教材の特性を考慮した「Gアップシート」の効果的な活用について構想すること。

(2) 生徒の実態や活用のねらいに応じた、「Gアップシート」の問題の精選や、意図的な再構成について構想すること。

<おわりに>

長期研修の機会を与えていただきました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

- 相澤秀夫(2002),『中学校国語科絶対評価規準づくり』, 明治図書
- 朝比奈久子他(1999),「論理的に表現する力を育てる指導法の研究」, 八戸市総合教育センター
- 阿部昇(2003),『文章吟味力を鍛える 教科書・メディア・総合の吟味』, 明治図書
- 市毛勝雄(1997),『説明文教材の授業改革論』, 明治図書
- 大貫眞弘(2003),「リライト教材で説明的文章の導入を」,『教育科学国語教育』9月号, 明治図書
- 小田迪夫(1986),『説明文教材の授業改革論』, 明治図書
- 甲斐徳人他(2006),「中学校・高等学校国語科における説明的文章の学習指導に関する研究」, 大分県教育センター
- 科学的『読み』の授業研究会(2005),『国語科小学校・中学校新教材の徹底研究と授業づくり』, 学文社
- 梶野明信(2002),「場面や相手を意識して意見文を書く」,『実践国語研究』6・7月号, 明治図書
- 河野庸介(2000),『中学校新国語科授業の基本用語辞典』, 明治図書
- (2002),「評価で国語科の授業が変わる」,『実践国語研究』6・7月号, 明治図書
- (2003),『中学校国語科週3時間の授業に対応した授業プラン集』, 明治図書
- (2005),『中学校新国語科授業プラン集第1巻第1学年編』, 明治図書
- 柴田義松他(2006),『あたらしい国語科指導法改訂版』, 学文社
- 白石壽文他(1992),『新版国語実践指導全集 第3巻 理解の指導2』, 日本教育図書センター
- 杉本直美(2004),「『めぐる輪』の中で生きる』の授業実践」,『実践国語研究』8・9月号, 明治図書
- 中村隆(2002),「授業の工夫改善につながる学習評価」, 京都市教育センター
- 日本言語技術教育学会(2005),『言語技術教育第14号』, 明治図書
- (2006),『言語技術教育第15号』, 明治図書
- 光野公司郎(2001),「指導内容を支える技術を具体レベルで」,『教育科学国語教育』9月号, 明治図書
- 村松敦(1999),「論理的表現を学ぶ説明的文章の授業の提案」, 岡山県教育センター
- 柳生利昭(2006),「授業づくりにPDSでの点検を生かす」,『教育科学国語教育』6月号, 明治図書

【補充資料】

目次

【補充資料 1】	
文章の構成や展開をとらえる力の育成状況を見る事前・事後テスト問題	----- 資 1
【補充資料 2 - 1】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（1）	----- 資 4
【補充資料 2 - 2】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（2）	----- 資 5
【補充資料 2 - 3】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（3）	----- 資 6
【補充資料 2 - 4】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（4）	----- 資 7
【補充資料 2 - 5】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（5）	----- 資 8
【補充資料 2 - 6】	
単元「モアイは語る」の指導展開案（6）	----- 資 9
【補充資料 3 - 1】	
G アップシート	----- 資10
【補充資料 3 - 2】	
G アップシート	----- 資11
【補充資料 3 - 3】	
G アップシート	----- 資12
【補充資料 3 - 4】	
G アップシート	----- 資13
【補充資料 3 - 5】	
G アップシート	----- 資14
【補充資料 4】	
ふり返りカード	----- 資15
【補充資料 5】	
ワークシート（1時間目に使用）	----- 資16
【補充資料 6】	
作文再構成用シート（6時間目に使用）	----- 資17
【補充資料 7】	
ワークシート（6時間目に使用）	----- 資18
【補充資料 8】	
授業の流れ・家庭学習の内容についての配布・掲示資料	----- 資19

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

問題文には、光村図書平成 5 年度用教科書から
国語一年「本当に必要なものは」を用いた

二年 組 番 氏 名

問一 この文章の論の述べ方について、次から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 具体的な例を示したり、数字を示したりして、読み手にわかりやすくしている。
- イ あまり例を挙げずに、筆者が読み手に伝えたい意見を中心にして論を進めている。
- ウ 論理の筋道をはっきりさせるため、接続する語句や指示する語句を効果的に使っている。
- エ 筆者の意見ははっきり述べず、廃棄物が増えた例を多く用いて、読み手に考えさせる文章となっている。

ウ	ア
---	---

問二 中身が大きく変化してきていることの例として挙げられている廃棄物の種類を、大きく三つにまとめて答えなさい。

一つ目	使い捨ての容器、包装材
二つ目	食べ残し
三つ目	粗大ごみ

問三 右の問題について、なぜ筆者は、三つの例を並べるとき、三つ目のものを最後にしたと考えられるか、その理由をAに書きなさい。

書ける人は、自分がこのように内容の順序を意識して表現した経験や、話を聞いたり本を読んだりする時に、内容の順序による効果を感じた経験があれば、その経験を例に挙げて説明しなさい。この書き方で書く場合はBに書きなさい。

A

(例) 容器・包装材、食べ残しよりも、大きいごみであり、また、意外性があった、最後に印象づけることができるから。

B

(例) 私は、夏休みの思い出についてスピーチをする時に、二つの思い出について話した。特に大きな思い出になっている方をあとから話した方が、最後まで聞き手をひきつけることができるし、強く印象づけられると感じて、そのように話した。

それと同じように、この文章でも、粗大ごみは、容器・包装材、食べ残しよりも、大きいごみであり、また、意外性があった、最後に印象づけることができるから、最後にしたと考えられる。

問四 この文章は大きく三つに分けることができる。その分け方として、適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問五 問四のように大きく三つに分けたときのそれぞれのまとまりの内容を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

「初め」のまとまり	エ
「なか」のまとまり	ア
「終わり」のまとまり	ウ

- ア 話題についての具体例
 イ 筆者の体験
 ウ 筆者の意見
 エ 話題提示
 オ 疑問の解明
 カ 問題に取り組んだ結果

問六 この文章で、筆者が最も伝えたいことが書かれている段落はどこですか。段落の番号を書きなさい。また、筆者が最も伝えたいことを、選んだ段落の言葉を使って百字以内でまとめなさい。

段落の番号

最も伝えたいこと

私たちにできることは、「 <u>こみを減らす</u> 」ことだ。そのために、ものを作ったり、買ったり、使ったりするときに、それが <u>本当に必要なものか</u> がどうか、 <u>どういつ使い方をすればいいか</u> を考えたいものだ。(八十八字)

がキーワード

【補充資料2—①】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（1／6時間）

(1) 目 標 ・文章構成の形式を理解し、違いを見分けることができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
文章構成の形式を見分ける力を見るために「Gアップシート①」の問題に取り組む	Bの内容に加え、接続語を用い、文のつながりを考えながら、文章を他の形式に書き換えている	文章構成の三つの形式の名称と違いを理解し、三種類の文章を読んで、その文章の構成を見分けている	ワークシートや板書の見直しをさせる

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 10	1 単元の見通しをもつ ・本単元で身に付ける「中核となる力」を「ふり返りカード」で知り、単元の見通しをもつ 2 本時の学習の目標をもつ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">文章構成の形式を見分けよう</div>	○「ふり返りカード」が、単元全体の目標と計画を示していること、また、それを意識して学習に臨み、学習後に力が身に付いたかどうかを「ふり返りカード」を用いて振り返ることが、学習方法として有効であることを伝える ○授業の目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
展開 37	3 文章構成の形式を知る (1) 文章構成の三つの形式（頭括式、尾括式、双括式）の名称と特徴を知る (2) 形式ごとに、「最も伝えたいこと」が書いてある場所を確認する (3) 「なか」に書く内容を知る (4) 構成がわかることの良さを考える 4 実現状況を確認する ・「Gアップシート」で文章構成の形式が理解できたか確認する 「Gアップシート①」の内容 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 0 auto;"> ・各形式の違いを理解し、名称を答える ・三つの形式の文章を読み、書かれている形式を答える ・ある形式で書かれた文章を、異なる形式に書き直す </div>	○文章構成の形式を、典型的なわかりやすい文章を例にして示し（「Gアップシート①」と同じ文章を紙板書にして使う）、確実に理解させる ・「最も伝えたいこと」を述べる位置を覚えるために、ワークシートの図に色を塗る作業を取り入れる ・視覚的に構成・展開を意識できるように、全時間を通して、色のカードを提示しながら進める ・文章構成の形式がわかると、「最も伝えたいこと」が述べられている場所を見つけやすくなり、文章の要旨もとらえやすくなるという良さに気づかせる ○「Gアップシート①」を使う ・説明で使用した紙板書ははずす ○「Gアップシート」に明示してある「中核となる力」（授業の目標）について再度確認したり、使い方を説明したりし、「Gアップシート」が自分の力を確認するために有効であることを伝え、意識的に取り組ませる ○「Gアップシート」で授業の実現状況を把握し、その後の学習に生かさせる ○授業者は実現状況を確認し、次時の授業、家庭学習の指導、個別学習に生かす
終末 3	5 本時の学習を振り返る	○「ふり返りカード」を使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返らせる

【補充資料2—②】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（2／6時間）

(1) 目標 ・文章構成の形式を確実に理解することができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
「Gアップシート②」を活用し、文章構成の形式を意識して、文章を書く	Bの内容に加え、身の回りから構成を意識して表現されている文章を見つけている	双括弧の文章を参考にして、文章構成の形式を意識し、形式に合わせて文章を書いている	前時に使用した文章構成を説明したワークシートや「Gアップシート①」、「Gアップシート②」の文例の見直しをさせる
ペアを組んで、互いが書いた文章を三つの形式の一つを選んで発表し合い、どの形式かを考える	Bの内容に加え、他の二種類の形式に言い換えることができ、それぞれの良さに気付いている	自分の書いた文章を他の形式に変えたり、相手の文章を聞いて、形式を判断したりしている	読めない時は、ワークシート等を見直し、聞いただけで判断できない時は、相手の文章を見させる

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 1	1 本時の学習の目標をもつ 文章構成の形式を確実に覚えよう	○授業の目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
展開 47	2 文章構成の形式を確実に理解する (1) 文例を読み、文章構成の形式を確認する (2) 双括弧の形式に沿って短い文章を書く (3) 双括弧の文章を、他の二つの形式に書き換えるとどのような文章になるか考える (4) それぞれの形式の良さと、適する内容を考える (5) 展開の工夫について気付く（「なか」の例や説明を並べる順序） (6) 「チャレンジ問題」に班ごとに取り組む 3 実現状況を確認する ・ペアを組んで、互いが書いた文章を三つの形式の一つを選んで発表し合い、どの形式かを考える	・前時の学習を振り返りながら、文章構成の形式を想起させる ○(1)～(6)まで「Gアップシート②」を使う ○構成のみを意識して書かせる ○文章の内容、書き手の意図によって、合う形式があることに気づかせる ・(4)は前時のワークシートも使う ○構成だけでなく、展開を工夫すると更に効果的に読み手に伝わることに気づかせる ○展開の工夫については、第5間時目につなげるために、よく押さえさせておく ○チャレンジ問題は「Gアップシート」における発展問題だが、本時では、グループで取り組ませる ・ペアで、クイズ形式的な学習を行い、互いが文章構成の形式を理解できているか確認する ○授業者は、「Gアップシート②」を回収し、実現状況を確認して、第6時の授業の構想や家庭学習の指導、個別学習に生かす
終末 2	4 本時の学習を振り返る	○「ふり返りカード」を使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返らせる

【補充資料2—③】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（3／6時間）

(1) 目 標・文章を読み、文章構成の形式を見分け、文章のおおまかな内容をとらえることができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
既習内容を生かし、文章構成の形式を理解して、「最も伝えたいこと」が書かれているところを見つける	Bの内容に加え、「最も伝えたいこと」を文章にまとめている	「初め」と「終わり」に当たる部分を見つけ、「最も伝えたいこと」が書かれているところを見つけている	第1時間目に使用した文章構成を説明したワークシートや「Gアップシート①②」の見直しをさせる

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 1	1 本時の学習の目標をもつ 文章構成の形式を確認し、内容をおおまかにつかもう	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業では、教材文に出会い、文章構成の形式を確認し、おおまかな内容をとらえること、また、次時の準備をすることを確認する 前時までに学んだことの確認や、次時の、構成をとらえる学習のための準備が中心となる
展開 40	2 教材文を読む (1) 題名について考える (2) 教師の範読を聞く 3 おおまかに内容をつかむ (1) 「初め」と「終わり」の部分を確認する (2) 文章構成の形式の確認をする (3) 文章構成の形式の学習を生かして、「最も伝えたいこと」が書かれているところを見つける (4) 「最も伝えたいこと」を伝えるために、どんなことが述べられているか、おおまかに内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のモアイの写真を用いたり、モアイについて知っていること、疑問等を発表させたりして、教材文に興味をもたせる 題名について、モアイが何を語るのかを考えさせ、興味をもって教材文に向かわせる まず「初め」と「終わり」に当たる部分があるかどうかから考えさせる 「初め」は、既習内容を生かし、問題提起の文章を手がかりに見つけさせ、問題の内容も確認する 「終わり」はおよそつかませ、「最も伝えたいこと」に気づかせてから、正確に確認する 「初め」と「終わり」の部分があることから、「双括式」であることを確認する 文章構成の形式の学習を生かし、「最も伝えたいこと」を、「初め」と「終わり」の部分から見つけさせる 「最も伝えたいこと」は「地球の資源利用の仕方」であることが、およそつかめればよい 題名と副題や形式段落②の5文目にふれながら、「最も伝えたいこと」を伝えるためにモアイを話題としていることに気づかせる
終末 9	4 本時の学習を振り返る 5 次時の学習の準備をする ・教材文をプリントしたものを切り、カードを作る 6 次時の授業の内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 「ふり返りカード」を使って、学習の目標が達成されたかどうか振り返らせる 「初め」「終わり」は大段落ごとに、「なか」は、形式段落毎に切り取らせる 次時の構成をとらえる学習で使用する、台紙となる色紙も渡し、次時の準備をさせる カードを使って構成をとらえる学習を行うことを確認する

【補充資料2—④】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（4／6時間）

(1) 目 標 ・ 文章の構成をとらえることができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
提起された問題毎に答えの段落のカードをまとめ、文脈を考えてカードを並べ替える	Bの内容に加え、カードのまとめ方の理由を説明したり、双括弧以外の構成との違いを説明したりしている	「なか」の内容を理解し、提起された問題毎にカードをまとめ、まとまりの中の並べ方もおおむね合っている	形式段落②に立ち返らせ、「なか」の四つのまとまりの意味を確認させる
構成をとらえる力を見るために「Gアップシート③」の問題に取り組む	Bの内容に加え、まとまりごとの内容を適切に要約している	「初め」「なか」「終わり」に分け、それぞれの内容をとらえている	第1時間目に使用した文章構成を説明したワークシートや「Gアップシート①②」の見直しをさせる

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 1	1 本時の学習の目標をもつ 文章の構成をとらえよう	○授業の目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
展開 47	2 教材文で、構成のとらえ方を学ぶ (1) 文章構成の形式が双括弧であることを再度確認し、「初め」と「終わり」の部分のカードを見つけ、それぞれの役割を確認する (2) 「なか」の部分の内容と、「なか」のまとまりの数を考える (3) 「初め」で提起されている四つの問題ごとに、答えになっている段落のカードをまとめていく (4) 三人グループでまとめ方を話し合う (5) 問題毎にまとめられたカードを、文脈を考えて並べる (6) 三人グループで並べ方を話し合う (7) グループで考えた並べ方を発表し、よりよい並べ方を考える (8) 異なる文章構成の形式で書いた場合との違いに気付かせる 3 実現状況を確認する ・「Gアップシート」で構成をとらえる力が身に付いたか確認する 「Gアップシート③」の内容 ・「最も伝えたいこと」が書かれている段落を指摘する ・提示されている話題の内容を答える ・例の数と例が書かれている段落を指摘する ・文章を三段落に分ける	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は開かせず、前時に準備したカードを使って学習を進めていく 加工した教材文を使っていることを伝える 「初め」と「終わり」は形式段落ごとに切り離していないため、時間をかけずに進める 「なか」に書く内容は、説明、例、理由等であったことを思い起こさせ、この文章では何が書いてるのかを、「初め」の内容から気づかせる カードの枚数が多いため、作業の煩雑さが学習の妨げにならないよう、机上の整理、指示の徹底に努める カードによる学習が、遊び的なものにならないよう、文章の内容によく目を向けさせる まとまりごとに分けやすくするため、四色の台紙の上に分けていく 並べ方を確定したあとは、台紙にはらせ、次回の展開をとらえる学習の準備をする ○「Gアップシート③」を使う ○本時で身に付けたい「中核となる力」を再度確認し、「Gアップシート」の有効的な活用の仕方、取り組む意義について、意識させながら取り組ませる ○「Gアップシート」で授業の実現状況を把握し、その後の学習に生かさせる ○授業者は実現状況を確認し、次時の授業、家庭学習の指導、個別学習に生かす
終末 2	4 本時の学習を振り返る	○「ふり返りカード」を使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返らせる

【補充資料2—⑤】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（5／6時間）

(1) 目 標 ・ 筆者の論理の展開の意図や工夫をとらえることができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
「なか」の内容の効果的な並べ方や、筆者の論理の展開の意図を考える	Bの内容に加え、四つの並べ方について、理由を明確に書き、筆者の論理の展開の意図も説明している	筆者の意図に気付く、四つの問題のうち「イースター島の文明がどうなったか」についてのまとまりを最後にしている	台紙に貼った、まとまりごとの内容をよく読み直してとらえさせ、「Gアップシート②」の文章を参考にして並べ方を考えさせる
構成をとらえる力を見るために「Gアップシート④」の問題に取り組む	Bの内容に加え、筆者の論理の展開の意図を明確に読み取り、説明している	文章の流れをつかみ、抜けている文や語を入れたり、筆者の論理の展開の工夫や意図をとらえたりしている	「Gアップシート②」の文章を読み直させたり、本時で考えた「なか」の並べ方を振り返らせたりする

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 1	1 本時の学習の目標をもつ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">文章の展開をとらえよう</div>	○授業の目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる ・「文章の展開」とは、筆者の論理の展開の意図に基づいた説明の工夫、説得の方法であることを確認する。
展開 47	2 筆者の論理の展開の意図をとらえる (1) 「なか」の四つのまとまりの効果的な並べ方を、理由も明確にして考える (2) 三人グループで並べ方を話し合う (3) グループ毎の考えを理由と共に発表し、互いの考えに意見を述べ合う (4) 筆者の並べ方を知り、自分たちの並べ方と比較しながら、筆者の論理の展開の意図を考える (5) 「なか」の並べ方以外の展開の工夫について考える 3 教材文の構成と展開についてまとめる 4 実現状況を確認する ・「Gアップシート」で展開をとらえる力が身に付いたか確認する 「Gアップシート④」の内容 ・問題の答えが説明されている段落を指摘する ・「なか」の並べ方の理由を答える ・文章の展開を考えて、適語を補充する ・文章の展開を考えて、文を挿入する ・論の述べ方を答える	・前時でカードを台紙に貼った物を使うが、並べ替える作業が、遊び的なものにならないよう、まとまりの内容や、「最も伝えたいことに」よく目を向けさせ、順番による効果の違いを考えさせる ・並べ方の理由も書かせる ・三人の意見を、一つにまとめる ・一人の意見に引きずられないよう、全員が納得するまで話し合わせる ・意見を板書する際には、生徒の台紙と同じ色の紙板書を用いて、意見をわかりやすく示す ・形式的な理由ではなく、内容的な理由によって並べ方を考えていけるように、話し合いの流れを教師側で作っていく ・正解ではなく、筆者の並べ方である点に注意して提示する ・「地球の資源利用の仕方」についての意見を、読み手が納得するように伝えるために、筆者はどのように論理を展開させているのか、筆者の視点を意識させ、考えさせる ・展開の意図をプリントにまとめさせる ・教材文に限らず、展開の工夫とは、他にどのようなものがあるか教師側から説明する ・教材文については、イースター島の状況と地球の未来の類似点を見つけ、遺構から未来を考えるという筆者の着眼点の面白さに気付かせる ・双括式の良さに改めて気づかせる ○「Gアップシート④」を使う。 ○本時で身に付けたい「中核となる力」を再度確認し、「Gアップシート」の有効的な活用の仕方、取り組む意義について、意識させながら取り組ませる ○「Gアップシート」で授業の実現状況を把握し、その後の学習に生かす ○授業者は実現状況を確認し、次時の授業、家庭学習の指導、個別学習に生かす
終末 2	5 本時の学習を振り返る	○「ふり返りカード」を使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返らせる

【補充資料2—⑥】単元「モアイは語る—地球の未来」の指導展開案（6／6時間）

(1) 目標 ・文章の構成や展開をとらえる力の有用感を感じ、単元で学んだことを振り返ることができる

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
学んだことを生かして、第2時間目に書いた作文を再構成したり、与えられたテーマで文章を書いたりする	構成と展開を意識してテーマ作文を書き、自分の展開の仕方を明確に説明している	展開を意識して、再構成し、ペアの相手にその工夫を伝えたり、相手の工夫を感じ取ったりしている	「Gアップシート②④」の見直しをさせたり、「Gアップシート①」の文例で展開の工夫を説明したりする
文章の構成や展開をとらえる力を見るために「Gアップシート⑤」の問題に取り組む	Bの内容に加え、構成や展開をとらえて、内容を理解し、要旨をまとめている	文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容をまとめたり、展開の工夫をとらえたりしている	これまでのワークシートや「Gアップシート」を振り返らせる

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点（Gアップシート＝○）
導入 1	1 本時の学習の目標をもつ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">文章の構成や展開をとらえる学習のまとめをしよう</div>	○授業の目標（その時間に身に付けたい「中核となる力」）を明確にし、生徒にも意識させる
展開 44	2 自分の書いた文章を、構成・展開の学習を生かして再構成する (1) 自分が書いた文章を読み直し、次の3点について確認し、再構成する ①双括弧になっている ②「最も伝えたいこと」が明快である ③「なか」の並べ方が意図的である (2) ペアで、再構成前と後の文章とで変えた点や、変えたことによる効果を伝え合う 3 テーマに沿って作文を書く (1) テーマを選択し、条件に合わせて作文を書く ・テーマ—①友達のいいところ ②大切にしているもの ・条件 —説明や理由を三つ挙げ、その順番に並べた理由を明確にして、三段構成で書く (2) ペアで読み合い、評価し合う 4 実現状況を確認する ・「Gアップシート」で構成と展開をとらえる力が身に付いたか確認する 「Gアップシート⑤」の内容 ・提示されている話題の内容を答える ・例の内容を答える ・文章を三段落に分ける ・文章の展開を考えて、文を挿入する ・論の述べ方を答える文章 ・構成をとらえ、内容理解に役立て、文章を要約する	○「Gアップシート②」で書いた文章を再構成させる ○構成のみを意識して書いた文章を、展開の学習を生かして再構成させ、二つを比較することで、展開を工夫することの大切さや効果を感じさせる ○ペア学習では、内容にとらわれないよう、文章の構成と展開という視点を確認して、意見を伝え合わせる ・文章を作ることで、これまでの授業で身に付けた「構成や展開をとらえる力」を確かしながら、それを生かし、役立つことを実感する場面とする ・Cの生徒は、2の学習活動に集中させ、終了してから、3番に取り組みさせる ・作文には、ワークシートを使用させる。 ・これまで学んだ観点で評価させる ○「Gアップシート⑤」を使う ○本時、本単元で身に付けたい「中核となる力」を確認し、単元全体の総復習的な問題であることを意識させながら、取り組ませる ○特に、これまでの「Gアップシート」で苦手だった問題に意識を向けさせ、ワークシートやGアップシートを振り返らせながら、克服させる ○「Gアップシート」で授業の実現状況を把握し、その後の学習に生かさせる ○授業者は実現状況を確認し、家庭学習の指導、個別学習に生かす
終末 5	5 本時の学習を振り返る 6 単元全体の学習を振り返る	○「ふり返りカード」を使って、本時で身に付けたい「中核となる力」が身に付いたかどうか振り返らせる ○「ふり返りカード」を活用し、本単元で身に付ける「中核となる力」が身に付いたか、単元全体の実現状況を把握し、その後の学習に生かさせる

二年	国語	Gアップシート	読6	解答
----	----	---------	----	----

組 番・氏名

説明文を読もう

- ・構成の形式を見分けることができる

次の三つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1)

私の好きな食べ物は何でしょう。

一つ目のヒントは、柔らかいことです。口に入れた瞬間にとろけて、気持ちが悪くはなりません。

二つ目のヒントは、形です。食べ物そのものには、形はなくて、入れ物の形の通りに固まります。

三つ目のヒントは味についてです。卵の優しい味に、カラメルソースの苦みがぴったり合っていて、とてもおいしいです。

もうわかりましたね。

答えはプリンです。本当にプリンはおいしいので大好きです。

(2)

私は、白クマが好きです。

なぜなら、白クマは動きがともユーモラスだからです。以前テレビで見たのですが、前足全体を氷に付けて、押すように前に進む姿は、まるでぞうきんがけをしているようでした。

また、白い毛がふさふさしているところも魅力的です。大きい体全体が白い毛で覆われているので、見ていると、温かみを感じてほっとします。

(3)

国語は、授業で、いろいろな文章を読むことができ、楽しい。

また、国語は、言葉についてみんなと考えることができて興味深い。

さらに、国語は、担当の先生がみんな素敵だ。だから、私は、中学校の教科の中で一番国語が好きだ。

問一 文章の構成の形式について、次の説明に合うものを答えなさい。

最も伝えたいことが「初め」にある形式

頭括式

最も伝えたいことが「終わり」にある形式

尾括式

最も伝えたいことが「初め」と「終わり」の両方にある形式

双括式

問二 上のそれぞれの文章の最も伝えたいことをで囲み、それぞれの形式で書かれているか答えなさい。

(1)

双括式

(2)

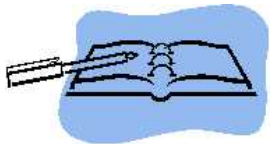
頭括式

(3)

尾括式

問三 (2)の文章に一文付け加えれば、双括式の文章になる。その一文を書きなさい。

(例) だから私は、白クマが好きです。



二年	国語	G アップシート	読 8	解答
----	----	----------	-----	----

説明文を読もう

- ・構成をとらえることができる(2)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題文は、使用許諾申請中

組 番・氏名

問一 話題が提示されている段落は何段落か答えなさい。また、提示されている話題を書きなさい。

話題提起の段落	段落
提示されている話題 (例) ガラパゴス諸島は、めずらしい生物の宝庫である。	

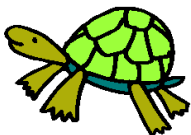
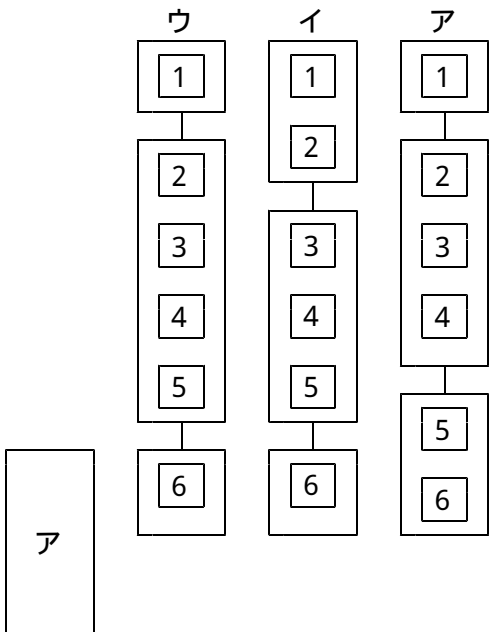
問二 問一の話題について、いくつ具体例を挙げているか。また、それは何段落に書かれているか。

具体例の数	三 つ
具体例が書かれている段落	段落
段落	段落

問三 この文章の構成の形式を答えなさい。

双括
式

問四 文章の構成を図に表すとどうなるか。次の中から選び、記号で答えなさい。



二年
国語
Gアップシート
読9
解答

説明文を読もう

- ・ 展開をとらえることができる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題文は、使用許諾申請中

組 番・氏名

その結果、二千五百年くらい前から、あたりはずっかり砂漠に変わってしまったのである。
(赤木昭夫作「ひろがる砂漠」より)

問一 この辺り一帯が砂漠ではなかったという理由が書かれているのは何段落か。

段落 段落

問二 なぜ筆者は、一つ目と二つ目の理由を、この順番に並べたと考えるか、考えて書きなさい。

(例) 動物が生きていた(描かれた)順番を説明するよりも先に、まず、カバがいたことをはっきり説明した方がいいから。

問三 文章の流れをとらえ、 に当てはまる言葉を考えて書きなさい。

第三に

問四 上の文章から、次の一文が抜け落ちている。段落番号を書きなさい。

水と草がたっぷり必要なカバの絵が古くて、水や草が少なくてもよいラクダの絵が新しいのは、だんだん水が少なくなり、草がなくなつて、ついに砂漠になつていったことを示していた。

段落

問五 この文章の論の述べ方について、次から適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 提示された話題について、理由を数え上げながら、説明している。
- イ 提示された話題について、読み手に考えさせる形をとっている。
- ウ サハラ砂漠にかつてカバがいたことを文章の初めから詳しく説明している。
- エ 話題に対する反対の意見を予想しながら、論を進めている。

ア

二年	国語	G アップシート	読10	解答
----	----	----------	-----	----

説明文を読もう
・構成や展開をとらえることができる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題文は、使用許諾申請中

問一 この文章で提示されている話題を書きなさい。
(例) 人間が石油や石炭などの燃料を多量に使うことにより、気象に影響が現れるという深刻な問題が起こっている。

組 番・氏名

問二 人間が燃料を使うことによって、気象に現れた影響を、二つ答えなさい。

一つ目	大気中の二酸化炭素の増加
二つ目	酸性雨

問三 内容をとらえ、文章を大きく三つに分けなさい。表に段落番号を書きなさい。

段落	初め	中	終わり
段落			
段落			

問四 文章から、次の一文が抜け落ちている。段落のいずれの最後に入るか、番号を書きなさい。

世界中で植物の生態が変わり、砂漠化が進むであろうし、同地などの氷が解けて海面が上がる。

--

問五 この文章の論の述べ方について、次から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 気象に現れた影響を、具体的な数字や、各国での状況等の事実を挙げて説明している。
- イ 気象に現れた影響を、ヒントを与えながら、読み手に考えさせる形をとっている。
- ウ 気象に現れた影響を、読み手にわかりやすいように、数え上げながら整理して説明している。
- エ 気象に現れた影響を五つ以上集め、深刻さを伝えている。

ア	
	ウ

【チャレンジ問題】

筆者の最も伝えたいことが書かれている段落を見つけ、その段落の言葉を使って、筆者が最も述べたいことを百字以内で書きなさい。

(例) 人間は、気象の変化のもとで生きているから、人間が気象に与える悪い影響は防がなければならない。この問題に真剣に取り組み、解決を怠ることは、地球に生き続けているすべての生命に対する私たちの責任だ。

【補充資料4】ふり返りカード

モアイは語る 地球の未来 (説明文)

☺ふり返りカード☺

2年 組 番 氏名

時間	日にち	Gアップシート	授業の目標	できたところ		できなかったところ		達成チェック	家庭学習
				問題		問題			
1	9 / 7	読6 説明文	文章構成の形式を見分けよう						
2	9 / 8	読7 説明文	文章構成の形式を確実に覚えよう	双括弧で書くよう意識した。 (☺ ・ ☹) 完成した文章は三段構成になっている。 (☺ ・ ☹) 「初め」と「終わり」に、「最も伝えたいこと」(「初め」は話題提示でもよい)を書いた。 (☺ ・ ☹) 「なか」には、「最も伝えたいこと」に合った根拠、説明、具体例等を書いた。 (☺ ・ ☹) ペアで文章を読み合ったときに、形式を当てることができた。 (☺ ・ ☹)					
3	9 / 11		文章構成の形式を確認し、内容をおおまかにとらえよう	「モアイは語る」の文章構成の形式がわかった。 (☺ ・ ☹) 「最も伝えたいこと」がどこに書いてあるか見つけられた。 (☺ ・ ☹) おおまかな内容がつかめた。 (☺ ・ ☹)					
4	9 / 12	読8 説明文	文章の構成をとらえよう						
5	9 / 13	読9 説明文	文章の展開をとらえよう						
6	9 / 14	読10 説明文	文章の構成や展開をとらえる学習のまとめをしよう						
単元を振り返って	力がついたこと								
	まだ自信のないところ								
	これから								

達成チェック ...問題がすべて解けた

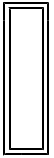
...いくつか課題が見つかった(2個以内)

...ふたたびチャレンジ!

説明文を読もう ワークシート
・構成の形式を見分ける

組 番 名前

文章構成の形式はいくつかあるが、次の三つの基本的な形式を覚えよう



は、最も伝えたいこと、

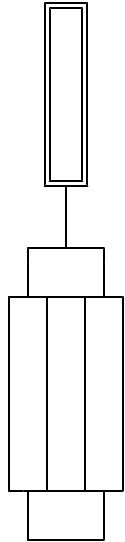


には、説明、例、理由などが入る。

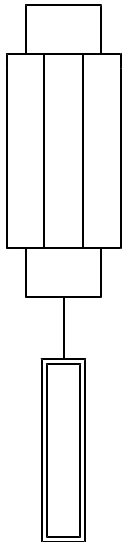
形式の説明

良さ

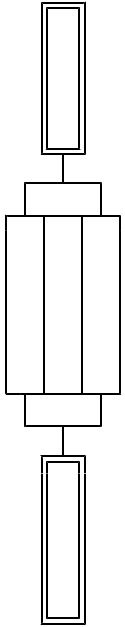
A 頭括式 「初め」で「最も伝えたいこと」を示し、次に例などで説明していく形式



B 尾括式 先に例などで説明を述べ、「終わり」で「最も伝えたいこと」を示している形式



C 双括式 「初め」で「最も伝えたいこと」を述べ、「終わり」でも繰り返し述べる形式



「初め」に話題（問題）を提示し、「終わり」でまとめる、「問い」と「答え」形式で書かれている文章もこの形式。

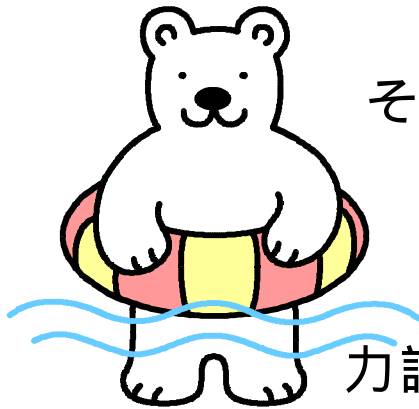
文章構成の形式ががわかるとどんな良さがあるだろう

段落の「つながり」について考えるために次のものに気を付けよう

指示語：「これ」「そこ」「あちら」等。同じ言葉の繰り返し返しを避けるために用いる。説明的文章には、特に、指示語が多いので「指示語」の指示する内容を正しくとらえて読むことが大切。

接続語：「だから」「しかし」「つまり」等。段落と段落、文と文、語と語の関係を表している。「接続語」の意味を理解することは文章の構成や展開をとらえる上で大切。

✎ 国語説明文「文章の構成や展開をとらえる」
学習の進め方 ✎



授業の流れ
その日の目標をもつ



授業に真剣に臨む



力試しの問題を解く(Gアップシート)



自分のできたところ、できないところを振り返る



家庭学習で復習 or 発展学習

家庭学習の内容

次の5つのパターンの中から選びましょう。

授業でやったGアップシートと同じシートをやる

似ている問題の違うシートをやる

Gアップシートの問題を

もう一度ノートに復習してみる

授業で習った形式で文章を書く

新聞の記事を切り抜いてノートに貼り、文章の

組み立てを考えたり、要旨をまとめたりする